

学 習 要 項

第3学年

2018



東京女子医科大学
看護学部

目 次

東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1
看護学部教育理念、教育目的、教育目標、第3学年教育目標	2
授業科目および単位数	5
アクティブラーニングについて	10
学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針	11
学則第11条関係 看護学部試験に関する規定	15

科目別到達目標・講義スケジュール

生活している人間の環境

家族関係論	17
公衆衛生学	19

健康障害と生活の調整

健康科学論	23
-------	----

働きかけの基本 看護活動

老年看護学・各論	27
小児看護学・各論	31
母性看護学・各論	34
地域看護学・概論	37
地域看護学・各論	40
精神看護学・各論	44
在宅看護論	47
成人看護学実習Ⅱ	50
老年看護学実習	53
小児看護学実習	57
母性看護学実習	59
地域看護学実習Ⅰ	62
健康教育学	64
公衆衛生看護活動展開論	67
公衆衛生看護管理論	70

人間性を育む

英語Ⅱ	73
中国語	79

各専門領域への発展

研究方法論	81
キャリア発達論Ⅲ	84
国際看護コミュニケーションⅠ	86
国際看護コミュニケーションⅡ	88
国際看護コミュニケーションⅢ	90

統合実習・卒業論文（4年次科目）

統合実習・卒業論文	93
-----------------	----

養護教諭一種免許課程

学校保健	95
養護概説	98
教育方法論	101
生徒指導論	103
教育相談	105
日本国憲法	108

第3学年授業担当教員	113
------------------	-----

カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900 年（明治 33 年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952 年（昭和 27 年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998 年（平成 10 年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりをもちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第3学年教育目標

1. これまでに学んだ知識・技術を活用し、あらゆる健康状態にある人との関わりの中で、よりよい看護を探究する。
2. さまざまな対象者への看護を実践する中で、自己の看護観を深める。
3. 主体的な学習態度を基盤として、他者と共に学ぶ能力を持つ。
4. 研究の基礎的知識・態度を学ぶ。

人材の養成に関する目的・その他の教育研究上の目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

アドミッション・ポリシー

東京女子医科大学では、女子に医学ならびに看護学の理論と実際を教授し、創造的な知性と豊かな人間性を備え、社会に貢献する女性医療人を育成するとともに、深く学術を研究し、広く文化の発展に寄与できる人材の養成を目的としています。

本学の目的をふまえ看護学部では、科学的思考と人間性に基づく優れた看護実践者を養成するため2つの特色あるキャンパスで学習します。大東キャンパスでは地方における地域密着型の保健医療を、河田町キャンパスでは都会における先進的医療を学びます。

従来の教育が教員から学生に一方的に知識と技術を教授することを主としてきたのに対して、本学の教育は学生自身が問題意識をもち、自らの力で知識と技術を発展させていくことを目指しています。

そのため本学では、幅広い視野を身につけ、自ら能力を高め、問題を解決しようとする意欲に燃えた学生に広く門戸を開いています。

看護学部が求める入学者像

1. 看護への強い関心を有し、医療人として社会に貢献する意欲の高い人
2. 主体的に学ぶ姿勢と、自ら問題を発見し解決していく態度を備えている人
3. 豊かな感性を備え、人間関係を育む力を有している人

カリキュラム・ポリシー

変動する社会の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成するために 6 つの教育の柱を有しています。初年度は静岡県の大東キャンパスにおいて、地域の人々との交流を通し人間そのものを理解する「人間の本質を問う」から学び、身体づくりや機能、栄養代謝、人間関係等について学びます。そして、生活環境・健康障害を学び、看護の専門性の高い科目にシフトし、学びを進めます。

1 年次から 4 年次までの看護職のキャリアを積み上げていく科目や、医学部・早稲田大学との協働教育があります。そして広い視野から思考できるように 1 年次から海外研修や海外からの学生との交流を行うとともに、2 年次からは早稲田大学グローバルエデュケーションセンター開講科目が履修できます。

そして保健師国家試験受験資格や養護教諭一種免許の選択科目を学ぶことが可能です。

教育の 6 本柱

1. 人間の本質を問う
2. 生活している人間の環境
3. 健康障害と生活の調整
4. 働きかけの基本・看護活動
5. 人間性を育む
6. 各専門領域への発展

ディプロマ・ポリシー

所定の期間に以下の学習目標を達成し、卒業に必要な単位を修得したものに学士（看護学）の学位が与えられます。

1. 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を有する。
2. 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本的技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を有する。
3. 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を有する。
4. 研究の基礎能力を有する。
5. 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる能力を有する。
6. 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を有する。

看護学部 看護学科の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間の 本質を問う	心 理 学	1		10			1						1
	生物としての人間	2		20	2								2
	栄 養 代 謝 学	2		28	1	1							2
	人体の構造と機能	4		56	2	2							4
	人 間 発 達 論	1		10	1								1
	人 間 関 係 論	1		18				1					1
	生 体 の 化 学	1		10		1							1
	人 間 援 助 論Ⅰ	1		18	1								1
	医療における倫理学	2		20				2					2
	人 間 援 助 論Ⅱ		1	10							1		3
	哲 学		1	10	1								
	女 性 論		1	10							1		
	論 理 学		1	10			1						
	計	15	4	230	8	4	2	3	0	0	2	0	18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		10			1						1
	感 染 看 護	1		10				1					1
	疫 学	1		18								1	1
	医療行政・関係法規	2		28							1	1	2
	社 会 福 祉 学	1		10				1					1
	家 族 関 係 論	1		10					1				1
	公 衆 衛 生 学(養選)(保選)		2	20						2			3
	文 化 人 類 学		1	10							1		
	社 会 と 人 間		1	10			1						
	生 活 科 学 論		1	10	1								
	人 間 生 活 と 法		1	10								1	
	人 間 生 活 と 経 済		1	10				1					
	史 学		1	10	1								
	計	7	8	166	2	0	2	3	1	2	2	3	10
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		10					1				1
	薬 理 学	2		28			1	1					2
	病 態 学 ・ 概 論	1		10		1							1
	病態学・各論Ⅰ（内科系）	4		56			2	2					4
	病態学・各論Ⅱ（外科系）	2		28			1	1					2
	病態学・各論Ⅲ（小児）	1		10				1					1
	病態学・各論Ⅳ（母性）	1		10				1					1
	病態学・各論Ⅴ（老年）	1		10				1					1
	病態学・各論Ⅵ（精神）	1		10				1					1
	病態学・特論	1		10								1	1
	人 間 工 学	1		10	1								1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		18								1	1
	リハビリテーション	1		10				1					1
	医 学 特 論		1	10								1	0
	計	18	1	230	1	1	4	9	1	0	0	3	18

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数
		必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
働きかけの基本 看護活動	看 護 学 ・ 概 論	2		20	2								2
	基礎看護学・各論Ⅰ (共通基本技術論)	1		18	1								1
	基礎看護学・各論Ⅱ (生活援助論)	2		36	1	1							2
	基礎看護学・各論Ⅲ (診療に伴う援助論)	1		18		1							1
	基礎看護学・各論Ⅳ (看護過程論)	1		18		1							1
	成人看護学・概 論	1		10			1						1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		28			2						2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		28				2					2
	フィジカルアセスメント	1		18			1						1
	老 年 看 護 学 ・ 概 論	1		10				1					1
	老 年 看 護 学 ・ 各 論	2		28					2				2
	小 児 看 護 学 ・ 概 論	1		10				1					1
	小 児 看 護 学 ・ 各 論	2		28					2				2
	母 性 看 護 学 ・ 概 論	1		10				1					1
	母 性 看 護 学 ・ 各 論	2		28					2				2
	地 域 看 護 学 ・ 概 論	1		10					1				1
	地 域 看 護 学 ・ 各 論	2		28					2				2
	精 神 看 護 学 ・ 概 論	1		10				1					1
	精 神 看 護 学 ・ 各 論	2		28						2			2
	在 宅 看 護 論	2		20					2				2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		30	1								1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		60		2							2
	成人看護学実習Ⅰ	3		90				3					3
	成人看護学実習Ⅱ	3		90						3			3
	老 年 看 護 学 実 習	2		60						2			2
	小 児 看 護 学 実 習	2		60						2			2
	母 性 看 護 学 実 習	2		60						2			2
	地 域 看 護 学 実 習 Ⅰ	2		60						2			2
	地 域 看 護 学 実 習 Ⅱ (保選)		4	120							4		0
	精 神 看 護 学 実 習	2		60							2		2
	統 合 実 習 Ⅰ	2		60							2		2
	統 合 実 習 Ⅱ	2		60							2		2
	健 康 教 育 学 (養選) (保選)		1	18						1			0
	公衆衛生看護活動展開論 (保選)		2	28						2			0
	公衆衛生看護管理論 (保選)		1	10						1			0
	コミュニケーションの理論と実際 (養選)		1	18							1		0
	計	53	9	1288	5	5	4	9	11	17	11	0	53

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数
		必修	選択		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		28	1	1							2
	英 語 I - 1	2		28	1	1							2
	英 語 I - 2	2		28			1	1					2
	英 語 II	2		28					1	1			2
	英 語 III		2	28							1	1	4
	ド イ ツ 語 I		2	28	1	1							
	ド イ ツ 語 II		2	28			1	1					
	韓 国 語		2	28			1	1					
	中 国 語		2	28					1	1			
	日 本 語 学		2	28	1	1							3
	美 術		2	28	1	1							
	音 楽		2	28	1	1							
	パフォーマンス芸術論		1	18								1	
	国 際 関 係 論		1	10								1	
計	8	18	364	6	6	3	3	2	2	1	3	15	
各専門領域への発展	保 健 医 療 統 計 学	1		18				1					1
	情 報 科 学 演 習 I	1		18	1								1
	情 報 科 学 演 習 II	1		18				1					1
	リエゾン精神看護	1		10								1	1
	研 究 方 法 論	1		18					1				1
	キャリア発達論Ⅰ	2		28	2								2
	キャリア発達論Ⅱ	1		18			1						1
	キャリア発達論Ⅲ	1		18					1				1
	キャリア発達論Ⅳ	1		18							1		1
	卒 業 論 文	1		18							1		1
	国際看護コミュニケーションⅠ☆		2	28	(1)	(1)	1	1	(1)	(1)	(1)	(1)	0
	国際看護コミュニケーションⅡ☆		2	28			(1)	(1)	1	1			0
	国際看護コミュニケーションⅢ☆		2	28			(1)	(1)	(1)	(1)	1	1	0
	国 際 看 護		2	20							1	1	0
計	11	8	286	2	0	2	3	3	1	4	3	11	
	合 計	112	48	2564	25 41	16	17 47	30	18 40	22	20 32	12	125

(養選)は養護教諭一種免許取得のための選択必修科目。

(保選)は保健師国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学、公衆衛生学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人 間 の 本 質 を 問 う	15	3	18
生活している人間の環境	7	3	10
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	53	0	53
人 間 性 を 育 む	8	7	15
各 専 門 領 域 へ の 発 展	11	0	11
計	112	13	125

前学期

4 月 1 日 ～ 10 月 15 日まで

後学期

10 月 16 日 ～ 翌年 3 月 31 日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

保健師国家試験受験資格に係る科目および単位数（18 回生～）

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数							
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
疫 学△	1	18								1
医療行政・関係法規△	2	28							1	1
社 会 福 祉 学△	1	10				1				
家 族 関 係 論△	1	10					1			
公 衆 衛 生 学	2	20						2		
健 康 科 学 論△	1	10					1			
保健医療行動科学△	1	18								1
リハビリテーション△	1	10				1				
地域看護学・概論△	1	10					1			
地域看護学・各論△	2	28					2			
在 宅 看 護 論△	2	20					2			
地域看護学実習Ⅰ△	2	60						2		
地域看護学実習Ⅱ	4	120							4	
健 康 教 育 学	1	18						1		
公衆衛生看護活動展開論	2	28						2		
公衆衛生看護管理論	1	10						1		
保 健 医 療 統 計 学△	1	18				1				
情 報 科 学 演 習 Ⅰ△	1	18	1							
情 報 科 学 演 習 Ⅱ△	1	18				1				
リエゾン精神看護△	1	10								1

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

養護教諭一種免許課程に係る科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数							
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
公 衆 衛 生 学	2	20						2		
疫 学 [△]	1	18								1
健 康 科 学 論 [△]	1	10					1			
学 校 保 健	2	20						2		
学 校 保 健 管 理 論	1	10							1	
養 護 概 説	2	20						2		
健 康 教 育 学	1	18						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	18							1	
栄 養 代 謝 学 [△]	2	28	1	1						
人体の構造と機能 [△]	4	56	2	2						
生 体 防 御 機 構 [△]	1	10			1					
薬 理 学 [△]	2	28			1	1				
精神看護学・概論 [△]	1	10				1				
精神看護学・各論 [△]	2	28						2		
基礎看護学・各論Ⅰ(共通基本技術論) [△]	1	18	1							
基礎看護学・各論Ⅱ(生活援助論) [△]	2	36	1	1						
基礎看護学・各論Ⅲ(診療に伴う援助論) [△]	1	18		1						
基礎看護学・各論Ⅳ(看護過程論) [△]	1	18		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求) [△]	2	28				2				
成人看護学実習Ⅰ [△]	3	90				3				
母性看護学・概論 [△]	1	10				1				
母性看護学・各論 [△]	2	28					2			
小児看護学・概論 [△]	1	10				1				
小児看護学・各論 [△]	2	28					2			
小児看護学実習 [△]	2	60						2		
地域看護学・各論 [△]	2	28					2			
教 職 入 門	2	20				2				
教 育 学 概 論	2	20			2					
教 育 心 理 学	2	20				2				
教 育 課 程 論	2	20			2					
教 育 方 法 論	2	20						2		
生 徒 指 導 論	2	20						2		
教 育 相 談	2	20						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	20								2
養 護 実 習	5	150							5	
日 本 国 憲 法★	2	20			2		(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技 [△]	2	28	1	1						
英 語 I - 1 [△]	2	28	1	1						
情 報 科 学 演 習 I [△]	1	18	1							
情 報 科 学 演 習 II [△]	1	18				1				

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

アクティブラーニングについて

東京女子医科大学看護学部では、「アクティブラーニング」を導入しています。この学び方は、高校教育の学び方と異なるところがあります。以下の内容をよく理解して授業を受けてください。

【大学教育において重要なこと】

- 大学のカリキュラムは授業時間だけでなく、予習と復習時間を合わせて構成されています。
- 教科書を暗記するだけでも、与えられた課題を行っているだけでも、大学教育は十分とはいえません。自律的に学ぶことが重要です（自己主導型学習ともいいます）。
- 大学は「学び方を学ぶ」ところであり、“覚える”ことだけでなく、“常に考える”ことが大切です。
- 正解は一つだけではありませんので、さまざまな角度から考えるという批判的に考えること（クリティカルシンキング）が重要です。

I. アクティブラーニングとは

アクティブラーニングとは、「思考を活性化する」学習形態を指します。例えば、実際にやってみて考える、意見を出し合って考える、わかりやすく情報をまとめる、応用問題を解くなどのさまざまな活動を介して、より深くわかるようになることや、よりうまくできるようになることを目指します。

グループ学習や技術演習がイメージしやすいと思います。その他にも学生同士で説明しあったり、事例問題に取り組んだりすることなども含まれ、多種多様な方法があります。

II. なぜアクティブラーニングが重要なのか

医療は著しく発展し、今はロボットが手術をする時代へと変貌を遂げています。教科書に書かれた知識を覚えていれば、看護師として医療現場でやっていけるとは限りません。常に新しい知識を取り入れる努力を積み重ねる「生涯学習者」となる必要があります。また、現代社会は情報化と国際化が進展しています。その中でたくましく生き抜いていくための社会人基礎力が重要となります。

社会人基礎力とは、**1) 前に踏み出す力**（主体性・働きかけ力・実行力）、**2) 考え抜く力**（課題発見力・計画力・創造力）、**3) チームで働く力**（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・自律性・ストレスコントロール）が挙げられます。これらを養うために、アクティブラーニングが重要です。

皆さんは、将来の看護を担う人として、このような人材になることを期待されています。今後の大学教育では、これらの内容を意識して取り組んでください。

教務委員会

東京女子医科大学看護学部
学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針

教務委員会

はじめに

学生の皆さんは、学生生活において様々な質の情報に接します。ここでは、そのうち以下の2つの性質をもつ情報について、本学部における取り扱い上の基本的指針を示します。

A：個人情報保護の対象となる情報

B：著作権（知的財産権）保護の対象となる情報

学生の皆さんは、次のことを自分の責任においてよく理解したうえで行動して下さい。

1. その情報は、誰のどのような権利の元にあるものか
2. 自分は、なぜその情報を取り扱うことを許されているのか
3. どのような姿勢・態度で取り扱うことが、その人の尊厳や権利を守ることになるのか
4. その人の尊厳や権利を守るために、何を行ってはいけないか
5. その情報が本人の承諾なく第三者に流出した場合、誰がどのような不利益を被るか
6. 5に関する不利益につき、自分はその人および社会への責任を負うことができるのか

情報の取り扱いに関して、様々な教育場面において担当教員から注意・配慮すべきことを指導しますが、その都度の個別的な状況で判断できない場合は、必ず事前に教員に相談して下さい。皆さんの行為の結果、万が一著しく他者を傷つけたり悪質であると判断されたりした場合は、学内・外における処罰の対象となります。

A：個人情報保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「個人情報」とは：

生存する特定の個人を識別できる情報（氏名、生年月日等、映像も含む）を指す。これには、他の情報と容易に照合することによって特定の個人を識別することができる情報および個人情報データベースも含む。

本学の個人情報保護に関連する規定・指針

ここで示されている指針は、本学の以下の規定に基づいている。

1) 学則第 11 章 学生に関する規定

（学生に関する規定）

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。

なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン／

東京女子医科大学における情報公開の指針

<http://houjin.int.twmu.ac.jp/intra/>

上記、法人イントラ ウェブサイトの「職員の皆様へ＞個人情報について」から閲覧可能。

(学内からのみアクセス可能)

1. 学生生活一般において

- 1) 他学生・教員の個人情報を本人の承諾を確認せず、または本人の意図に反して第三者に渡したり外部に流出させたりしない。たとえ誹謗中傷でない内容であったとしても行ってはいけない。
- 2) インターネットは、そのまま世界中に向けて情報を発信しているという認識で扱う。一旦ウェブサイト等に掲載されてしまった情報は完全に削除することはほぼ不可能であり、自分の意図を離れて第三者にどのように利用されるかは不明であることを自覚しておく。(友達同士では冗談で済まされるような話でも、世間では「事件」になることがある。)
- 3) インターネットに接続している電子機器(パソコン、スマートフォンなど)に個人情報を保存している場合は、次のことに注意する。
 - ・パソコンを家族や知人と共有している場合、その人たちへの注意を促す
 - ・ドキュメント共有ソフトと共存させない
 - ・適時、OSやウィルス対策ソフトを更新する
- 4) インターネット上に他者についての情報を書き込むときは次のことに注意する。
 - ・住所、仕事内容、家族構成、写真など
 - ・所属している組織(大学、アルバイト先など)に迷惑となること
 - ・法律で禁止されていること

2. 講義・演習における場合

- 1) 講義・演習中の学生や教員を本人の承諾を得ず撮影しない。
- 2) 講義・演習中の学生や教員の個人情報を本人の承諾を得ずインターネット上に書き込まない。
- 3) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

3. 臨地実習における場合

- 1) 記録物、資料には患者氏名、イニシャル等の個人が特定できる情報は書かない。
- 2) 記録物の提出はレポートボックスまたは教員への手渡しで提出する。
- 3) 実習終了後の記録類の保管は個人の責任で厳重に管理する。保管の必要がなくなった場合には、シュレッダーを利用し処分する。
- 4) 電子カルテは学生用のパスワードを用いて閲覧する。データを印刷してはならない。
実習以外の目的で不正にアクセスした場合は本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 5) 診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行う。
- 6) 患者の個人情報等(職員や組織に関することも含む)をブログやTwitter・Facebook・LINEなどを通じてインターネット上に公開した場合は、本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 7) エレベータ、通路、公道で決して患者や院内の情報に関わることを話さない。

- 8) 電車内への置き忘れなど、実習記録・資料の紛失に十分注意する。記録物の紛失はインシデント扱いとなる。
- 9) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

【参考資料】

- ・ 個人情報の保護に関する法律（略称 個人情報保護法）：
個人情報保護委員会ウェブサイトから
<https://www.ppc.go.jp/personal/legal/>
- ・ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン
厚生労働省ウェブサイトから
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000027272.html>

B：著作権保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「著作権」とは：

著作物は、それを考え出した人の人権そのものという性質、文化の発展に寄与するという性質、経済的な財産としての性質を併せ持っている。著作者の人権や経済的な財産をとしての性質を保護することで、著作物の創作を促進し文化の発展に寄与するための権利である。

大学生活では、著作物や著作権に配慮しなければならない場面が数多くある。ここでは、特に以下の場面について基本的指針を示す。

1. 論文・レポートや研究発表

他人の著作物を利用したり、他人の意見を記載したりする場合は、次の「引用の原則」を守る。

- ・ 公表された著作物の引用であること
- ・ 論文等の引用として正当な範囲内であること
- ・ 引用部分が本文と明確に区別されていること
- ・ 引用部分が本文からみて従であること
- ・ 引用に必然性があること
- ・ 必要最低限の引用であること
- ・ 出典を明記すること
- ・ 勝手な改変を加えないこと

2. 図書館での書籍等のコピー

調査研究のために公表された著作物の一部分を一人につき1部だけに止める。コピーの範囲は、慣行として著作物の半分までとする。

3. 講義や授業での使用

- 1) 著作者の許諾がなくても著作物を利用する場合は、次の条件を満たした場合とする。
 - ・授業を担当する教員やその授業を受ける学生自身がコピーすること
 - ・授業を受ける学生数を大幅に超えない部数をコピーすること
 - ・著作権者の利益を不当に害しないこと
- 2) 著作権者の許諾なしに、授業の様子やパワーポイント等で作成した資料をビデオ撮影、写真撮影あるいは録音したものをインターネット等で公開したり、DVD等に記録して配布したりしない。

4. サークル活動や大学祭での使用

- 1) 次のような場合には、著作権者の許諾が必要になるので注意する。
 - ・授業の一環としてではない営利を目的としない演奏会等に伴って楽譜や歌詞のコピー等資料を配布すること
 - ・新歓ポスターや演奏会等のポスター等にアニメやマンガのキャラクターを使用すること
- 2) 正当に購入したビデオやDVDを利用した上映会は、営利を目的とせず、聴衆や観客から料金を受け取らないのであれば、著作権法上の問題はない。ただし、レンタルや上映を禁止しているものもあるので注意する。

5. 自己のウェブサイトでの使用、インターネット上の掲示板や動画投稿サイト

インターネット上のサイトといった新しいメディアであっても、著作権に関しては、書籍等の以前からあるメディアと同様の扱いとする。

【参考資料】

- ・公益社団法人著作権情報センター（CRIC）ウェブサイト：<http://www.cric.or.jp/>

学則第 11 条関係 看護学部試験に関する規程

第 1 条 学習を助けかつ学力を測定するために試験を行う。

第 2 条 試験は授業の科目責任者が行うものとする。

第 3 条 試験は、科目の終了時に行う。ほかに中間試験は適時施行することができる。

第 4 条 試験の期日は概ね 2 週間前までに発表するものとする。

第 5 条 疾病またはやむを得ない事故により試験に出席できない時はその理由を試験欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。

第 6 条 授業時数の 3 分の 2 以上の出席者でなければ当該授業科目の終了時に行われる試験を受けることができない。

2. 前項以外の試験における受験資格については各授業の科目責任者が適宜定めるものとする。

3. 自然災害等により講義・実習に出席できない時はその理由を欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、欠席扱いとしない。

第 7 条 当該授業科目の終了時に行われる試験を欠席した者で第 5 条の届け出のあった者については原則として追試験を行う。ただし、再試験は行わない。

2. 前項以外の試験に欠席した者には必要に応じて追試験を行うことができる。

第 8 条 当該授業科目の終了時に行われる試験の不合格者には原則として再試験を行う。

2. 前項以外の試験に不合格の者には必要に応じて再試験を行うことができる。

第 9 条 追試験と再試験とは原則として試験終了後 3 週間以内に行う。ただし、その間に季節休業日のある時はその期間は含まないものとする。

第 10 条 第 7 条第 1 項に定める追試験ならびに第 8 条第 1 項に定める再試験を受ける者は受験料として 1 科目 3,000 円を納入するものとする。

第 11 条 試験の監督はその授業科目担当の教員（原則として 2 名）が行う。

ただし、やむを得ない場合に限って担当以外の専任教員または学務課員が補助する。

第 12 条 試験中不正行為を行った者に対しては、直ちに退場を命じ、当該試験の成績を 0 点とする。

第 13 条 試験の成績は 100 点を満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。ただし、セミナー、実習、卒論は A、B、C および D の評語とする。

第 14 条 追試験の成績は 2 割の減点を行う。

第 15 条 再試験で合格した場合、その授業科目の成績は 60 点とする。

第 16 条 学籍簿への記載は評語によるものとする。評語は次のとおりとする。

A は 80 点以上、B は 70 点より 80 点未満、C は 60 点より 70 点未満、D は 60 点未満（不合格）。

第 17 条 自然災害等により試験に出席できない時はその理由を試験欠席届に記入し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、別日程で試験を行う。ただし、受験料は別途徴収せず、試験成績の 2 割の減点も行わない。

2. 他の施設の就職試験や入学試験により試験に出席できない時は、入学試験・就職試験に伴う欠席届に欠席事由および施設証明欄を記載し、保証人連署の上 7 日以内に届け出なければならない。なお、届け出のあった者については、別日程で試験を行なう。ただし、受験料は別途徴収せず、試験成績の 2 割減点も行わない。

科目別到達目標
科目別講義スケジュール

生活している人間の環境

〔家族関係論〕

科目責任者 松寄 英士

目的

少子、高齢化の進む中で育児不安、病者を抱える家族の苦悩、子供や高齢者の虐待、非行問題、夫婦間の暴力、離婚の増加、ステップファミリーなどの新たな家族形成といった諸問題も大きく浮上してきている。また、さまざまな問題を抱えた家族、高齢者のケアなどは専門家の支援が必要となっている。この講義では、家族、家族関係の成り立ち・進展とその病理を理解し、その回復の鍵とそれを支援するのにどのようなことが必要なのかを探ることを目的とする。

到達目標

家族とはいったい何なのかを考え、その機能と役割を家族システム論の観点から理解する。
 家族の形成・発達を理解し、家族のなかの病理と回復の鍵、その支援のあり方を理解する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 家族とは	1. 家族の定義	1) 家族の機能と役割 2) 家族形態の多様化 3) 家族システム論 4) 家族の中でクライアントを理解することの意義
II. 家族関係の進展と病理	1. 親子関係 2. 夫婦関係	1) 親子関係の成り立ちと進展 2) 親子関係の諸相と病理 1) 夫婦関係の親密性とその心理 2) 夫婦関係の諸相と病理
III. 家族のケア	1. 問題を抱えた家族の心理と支援	1) 家族支援のアプローチ 2) 病者を持つ家族の支援 3) 家族関係論の新たな提言

評価方法

出席状況（10%）、リアクションペーパー（30%）、レポート（60%）で評価する。

教科書

教科書は指定せず、必要な資料等を毎回配布する。

参考図書

岩上真珠	ライフコースとジェンダーで読む家族	有斐閣	2013
岡堂哲雄 編	系統看護学講座基礎分野― 家族論・家族関係論 第2版	医学書院	2004
柏木恵子	家族心理学― 社会変動・発達・ジェンダーの視点	東大出版会	2003
柏木恵子／平木典子	家族の心はいま	東大出版会	2009
中釜洋子 他	家族心理学― 家族システムの発達と臨床的援助	有斐閣	2008
村尾泰弘	家族臨床心理学入門	北樹出版	2014

<講義スケジュール>

1	2018. 5.21	月	9:00～10:10	松 寄 英 士	家族の機能と役割、家族形態の多様化
2	5.21	月	10:25～11:35	松 寄 英 士	家族システム論、家族臨床心理学の基礎
3	5.28	月	9:00～10:10	松 寄 英 士	親子関係の成り立ちと進展
4	5.28	月	10:25～11:35	松 寄 英 士	親子関係の諸相
5	6. 1	金	12:30～13:40	松 寄 英 士	親子関係の諸相と病理
6	6. 1	金	13:55～15:05	松 寄 英 士	夫婦関係の親密性、その関係の心理と病理
7	6.11	月	9:00～10:10	松 寄 英 士	家族関係の病理、機能不全家族
8	6.11	月	10:25～11:35	松 寄 英 士	家族支援のアプローチ
9	6.22	金	15:15～16:25	松 寄 英 士	病者を持つ家族の支援
10	6.22	金	16:35～17:45	松 寄 英 士	家族のあり方とその支援を考える(レポート作成)

〔公衆衛生学〕（選択科目）

科目責任者 北島 勉

目的

健康の概念が万人に固有な基本的権利としてその社会的意義が認識され、人々が社会的役割を営むことができるための健康支援が保健医療福祉のあらゆる場面で展開されている。人々の健康はその生活状況と相互関係にあるため、社会的環境と密接な関わりがあることを理解し、健康支援に必要とする情報の収集および分析とそれを企画する能力が求められている。公衆衛生学では健康課題を考究する学際的領域の方法論を学び、健康課題をマネジメントするための基礎的能力を高める。

到達目標

1. 健康と生活を評価する基礎的な指標をあげることができる。
2. 健康支援の効果を評価する方法を具体的に述べることができる。
3. 対象者のライフコースにおける社会的役割に応じた健康課題を説明できる。
4. 生活者の健康課題を支援する仕組みと活動を説明できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 健康と公衆衛生	1. 公衆衛生の概念	1) 健康観の変遷 2) 自然権・生存権と基本的人権 3) 公衆衛生活動の基盤 4) 公衆衛生政策と保健等の計画
	2. 公衆衛生活動の変遷と意義	1) 保健医療福祉制度の経緯 2) 公衆衛生活動の対象と場 3) 社会環境の変化と公衆衛生活動の動向
II. 健康指標と公衆衛生	1. 健康生活に関連した指標	1) 人口関連統計 2) 生活環境関連統計 3) 疾病関連統計 4) 福祉関連統計
	2. 保健医療福祉活動の基本となる制度	1) 社会経済的動向 2) 医療保健関連制度 3) 保険制度 4) 福祉制度
	3. 公衆衛生活動の展開	1) ヘルスプロモーションの取組み 2) 疾病管理の取組み 3) 社会病理への取組み 4) その他の取組み
III. 健康管理と公衆衛生	1. 健康課題の評価	1) QOL の視点と健康寿命 2) スクリーニングと費用対効果 3) PDCA サイクルとマネジメント 4) リスク/セーフ・マネジメント

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	2. 対象別の活動	1) ライフサイクルとライフコース 2) 産業保健管理 3) 学校保健管理 4) 疫学 5) 医薬品・食品の安全管理 6) 情報管理 7) 国際保健

評価方法

出席状況（10%）、講義への参加態度（10%）、課題レポートの提出（30%）および試験結果（50%）により総合評価を行う。

教科書

厚生労働統計協会編 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会 2018

参考図書

島崎謙治	日本の医療：制度と政策	東大出版会	2011
河口洋行	医療の経済学 第3版	日本評論社	2015
日本疫学会	はじめて学ぶやさしい疫学 第2版	南江堂	2010
日本国際保健医療学会	国際保健医療学 第3版	杏林書院	2013

＜講義スケジュール＞

1	2019. 1. 7	月	12:30～13:40	北島 勉	看護における公衆衛生学の視座
2	1. 7	月	13:55～15:05	北島 勉	日本の人口構造と疾病構造
3	1. 7	月	15:15～16:25	北島 勉	日本の保健医療制度の変遷
4	1. 7	月	16:35～17:45	北島 勉	国民医療費
5	1.10	木	15:15～16:25	北島 勉	日本の保健医療制度
6	1.10	木	16:35～17:45	北島 勉	日本の医療保険制度(1)
7	1.17	木	15:15～16:25	北島 勉	日本の医療保険制度(2)
8	1.17	木	16:35～17:45	北島 勉	医療保険の特徴
9	1.21	月	12:30～13:40	北島 勉	医療保険制度の設計
10	1.21	月	13:55～15:05	北島 勉	疫学概念
11	1.24	木	13:55～15:05	北島 勉	疫学研究の種類と方法(観察研究)
12	1.24	木	15:15～16:25	北島 勉	疫学研究の種類と方法(介入研究)
13	1.25	金	12:30～13:40	北島 勉	保健医療活動の経済評価
14	1.25	金	13:55～15:05	北島 勉	健康指標とその活用
15	1.25	金	15:15～16:25	北島 勉	健康課題と健康・生活指標(演習)
16	1.28	月	12:30～13:40	北島 勉	健康課題と健康・生活指標(演習)
17	1.28	月	13:55～15:05	北島 勉	健康課題と健康・生活指標(演習)
18	1.28	月	15:15～16:25	北島 勉	国際保健の課題(感染症)
19	1.30	水	13:55～15:05	北島 勉	国際保健の課題(非感染性疾患)
20	1.30	水	15:15～16:25	北島 勉	国際保健の課題(母子保健)
	1.30	水	16:35～17:45	北島 勉	試験

健康障害と生活の調整

〔健康科学論〕

科目責任者 松岡 雅人

科目担当者 松岡 雅人、蔣池 勇太、藤木 恒太、
宮山 貴光、奥津 康祐

目的

健康の概念について多角的に、また、健康を生物要因、遺伝要因、環境要因（含む社会的環境要因）および生活習慣の各側面から追求し、健康の本質について理解する。

到達目標

1. 健康の定義を説明できる。
2. 健康に影響をおよぼす要因について説明できる。
3. 生活環境中の有害要因をあげ、健康におよぼす影響について説明できる。
4. 労働環境中の有害要因をあげ、健康におよぼす影響について説明できる。
5. 生活習慣が健康におよぼす影響について説明できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 健康科学論	1. 健康の概念	1) 健康観の変遷 2) 健康の概念 3) 環境への適応
	2. 健康と環境	1) 環境問題の変遷 2) 地球環境問題 3) 環境遺伝子相互関係
	3. 健康と生活環境	1) 水・大気・土壌 2) 騒音・振動
	4. 健康と労働環境	1) 職域における健康管理 2) 物理的要因 3) 化学的要因
	5. 健康とライフスタイル	1) 食生活・栄養 2) 運動 3) 休養・レクリエーション 4) 嗜好品（タバコ・アルコール）
	6. 健康と薬物	1) 薬物 2) 毒物

評価方法

試験結果(100%)により評価を行う

教科書

指定なし

推薦図書

千葉百子 ^他 編	コンパクト公衆衛生学	朝倉書店	2013
---------------------	------------	------	------

参考図書

横山英世 監修	新衛生・公衆衛生学	日本医事新報社	2012
田中 逸	健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病	日本医事新報社	2013
鈴木庄亮、久道 茂 編	シンプル衛生公衆衛生学 2017	南江堂	2017
岸 玲子 ^他 編	NEW 予防医学・公衆衛生学	南江堂	2012
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017
森 晃爾 編	産業保健マニュアル	南山堂	2017
厚生労働統計協会	厚生指標／臨時増刊 国民衛生の動向	厚生労働統計協会	年刊
厚生労働省	厚生労働白書	日経印刷	年刊
環境省	環境白書	日経印刷	年刊
中央労働災害防止協会編	労働衛生のしおり	中央労働災害防止協会	年刊

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.16	月	10:25～11:35	松岡 雅人	健康科学論序論
2	4.18	水	10:25～11:35	蔣池 勇太	食品衛生学
3	4.23	月	10:25～11:35	藤木 恒太	環境汚染と公害
4	4.25	水	10:25～11:35	宮山 貴光	上水・下水と廃棄物処理
5	5. 9	水	10:25～11:35	蔣池 勇太	ヒトの遺伝と染色体異常
6	5.30	水	10:25～11:35	土肥誠太郎	産業保健1（産業保健総論）
7	6. 6	水	10:25～11:35	奥津 康祐	産業保健2（医療現場の健康管理）
8	6.13	水	10:25～11:35	宮山 貴光	産業保健3（化学的要因による健康障害）
9	6.18	月	10:25～11:35	松岡 雅人	産業保健4（物理的要因による健康障害）
10	6.25	月	10:25～11:35	松岡 雅人	産業保健5（産業保健の最近の課題と対策）
	6.27	水	10:25～11:35	松岡 雅人	試験

働きかけの基本 看護活動

〔老年看護学・各論〕

科目責任者 長江 弘子

科目担当者 長江 弘子、坂井 志麻、原沢のぞみ、
岩崎 孝子、川原 美紀、三村 千弦

目的

老年期に特有な健康障害及びその症状への看護を学ぶと共に、高齢者を取り巻く家族や地域社会との関係及び社会システムも含めて、高齢者が健やかに暮らすための看護について学ぶとともに、期待される役割について省察する。

到達目標

1. 高齢者の機能低下に伴う健康上のリスクを示し、アセスメントの方法と看護について説明できる。
2. 高齢者に用いられる ADL 評価の指標を挙げて説明することができる。
3. 摂食・嚥下障害のある人の看護について説明できる。
4. 療養高齢者の生活を整える看護技術の方法及び観察点、注意点を理解し、安全に実施できる。
5. 認知症の看護について説明できる。
6. 治療に伴って生じやすいリスクと看護について説明できる。
7. 高齢者を介護している家族を支援することの必要性和家族支援の方法について説明できる。
8. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉制度の概要について説明し、チームの中での看護の役割について述べることができる。
9. 高齢者の終末期看護の特徴と必要とされる看護について説明できる。
10. 老年看護領域の倫理的問題について具体例を挙げ、権利擁護という視点から説明することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ．老年期における健康障害と看護	1. 老年期の健康生活を支える看護	1) 老年看護実践の特徴
	2. 日常生活動作のアセスメントと看護	2) 高齢者の生活リズム 1) ADL・IADL のアセスメント 2) 高齢者の日常生活動作能力のアセスメントと看護
	3. 身体・精神機能の低下とその予防	1) 生活機能の低下とその予防 (リハビリテーション・老年症候群の予防含)
	4. 老年期に多い症候および治療方法と看護	1) 脱水症と看護、 2) 排便障害と看護 3) 摂食・嚥下障害と看護 4) 生活を整える看護技術(清潔・移動) 5) 薬物療法と看護 6) 手術療法と看護(せん妄の看護を含む)
Ⅱ．認知症高齢者の看護	1. 認知症高齢者の症状と看護	1) 症状の特徴と効果的な援助 2) 家族間に生じる問題 3) 介護家族への援助
	2. 認知症の看護に活用される療法	1) 作業療法 2) 回想法、リアリティ・オリエンテーション 3) 音楽療法、園芸療法、その他

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 老年看護の展開	3. 認知症高齢者と家族のサポートシステム	1) 通所サービス 2) グループホーム 3) 家族会 4) 地域ケアシステムづくり
	1. 健康障害をもつ高齢者の統合的なアセスメントとは	1) 疾患をもった高齢者の看護過程
Ⅳ. 保健・医療・福祉制度とケアマネジメント	1. 高齢者保健・医療・福祉制度の動向	1) 高齢者人口の推移と老人保健（介護保険） 2) 高齢者の保健・医療・福祉制度とサービス体系
	2. ケアマネジメントとケアプランの実際	1) ケアマネジメントとチームアプローチの必要性 2) ケアマネジメントとケアプラン
Ⅴ. 老年看護の活動の場	1. 病院・高齢者施設における老年看護と継続看護	1) 病院における老年看護 2) 介護保険施設における老年看護 3) 病院・施設における感染症とその予防 4) 地域に継続する老年看護
	2. 高齢者の家族機能と家族支援	1) 高齢者と家族への退院支援
Ⅵ. 高齢者の終末期看護	1. 高齢者における終末期看護	1) 終末期看護の基本 2) 高齢者の終末期看護の実践 3) 家族に必要な終末期看護
	2. 家族の悲嘆への援助	1) 家族へのサポート 2) 死亡した高齢者の人生の肯定
Ⅶ. 老年看護の倫理	3. 高齢者の死に関わる権利	1) 死に関する高齢者の自己決定権 2) 高齢者のリビング・ウィル
	4. 高齢者の死を看取る場所	1) 老いを看取るさまざまな場所
	1. 老年看護活動と倫理	1) 身体拘束廃止とその取り組み 2) 高齢者虐待

評価方法：試験結果 75%、演習レポート 15%、演習出席 10%として評価を行う。

教科書

水谷信子、水野敏子_他 最新 老年看護学 第3版 日本看護協会出版会 2017

参考図書

厚生労働統計協会	厚生の指標 国民衛生の動向	厚生労働統計協会	年刊
内閣府 編	高齢社会白書	日経印刷	年刊
厚生労働省	厚生労働白書	日経印刷	年刊
西川満則、長江弘子 _他	本人の意思を尊重する意思決定支援	南山堂	2016
日本看護協会	認知症ケアブック	照林社	2016
亀井智子 編	根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版	医学書院	2016
六角僚子	認知症ケアの考え方と技術 第2版	医学書院	2015

日本老年医学会 編	老年医学 up-date 2009-10 特集：薬物療法の安全性と服薬管理に関するトピックス	メジカルレビュー社	2015
宇都宮宏子 監修	退院支援ガイドブック： 「これまでの暮らし」「そしてこれから」をみすえてかわる	学研メディカル秀潤社	2015
村上須賀子 ^他 編	医療福祉総合ガイドブック 2015 年度版	医学書院	2015
木下佳子 編	完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド	照林社	2015
長江弘子 編著	継続看護マネジメント：生活と医療を統合する	医歯薬出版	2014
宇都宮宏子、山田雅子 編	看護がつながる在宅療養移行支援	日本看護協会出版会	2014
寺見雅子 編著	できることから始める摂食・嚥下 リハビリテーション実践ガイド	学研メディカル秀潤社	2012
宇都宮宏子、三輪恭子 編	これからの退院支援・退院調整	日本看護協会出版会	2012
山田律子 ^他	生活機能からみた老年看護過程 +病態・生活機能関連図 第2版	医学書院	2012
奥宮暁子 ^他	生活機能のアセスメントにもとづく 老年看護過程	医歯薬出版	2012
野村幹司 編	認知症患者の摂食・嚥下リハビリテーション	南山堂	2011
日本老年医学会 編	健康長寿診療ハンドブック	メジカルビュー社	2011
日本老年医学会 編	老年医学テキスト改訂第3版	メジカルビュー社	2011
遠藤英俊 著	「かかりつけ医」のための認知症診療ガイド	医薬ジャーナル	2011
認知症疾患治療 ガイドライン作成委員会	認知症ケアガイドライン：2010	医学書院	2010
山内典子 ^他	「看護技術」せん妄予防、重症化させない看護	メジカルフレンド社	2010
中島紀恵子、石垣和子 編	高齢者の生活機能再獲得のための ケアプロトコール	日本看護協会出版会	2010
日本老年医学会雑誌 編集委員会 編	老年医学 update2010-11	メジカルビュー社	2010
水野敏子企画・構成	臨床看護「あなたの病棟の高齢者看護」	へるす出版	2010
長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班	高齢者総合的機能評価ガイドライン	厚生科学研究所	2003

<講義スケジュール>

1	2018. 4.16	月	12:30～13:40	長江 弘子	老年看護実践の特徴～多様な療養の場における尊厳あるケア～
2	4.20	金	13:55～15:05	長江 弘子	高齢者の生活を支える看護
3	4.20	金	15:15～16:25	長江 弘子	高齢者の生活アセスメントと生活リズム
4	4.23	月	13:55～15:05	原沢のぞみ	排便障害と看護・脱水症と看護
5	4.23	月	15:15～16:25	坂井 志麻	認知症高齢者の看護（AL）
6	4.26	木	12:30～13:40	坂井 志麻	活動機能の低下と予防
7	4.26	木	13:55～15:05	原沢のぞみ	薬物療法と看護
8	4.26	木	15:15～16:25	原沢のぞみ	手術療法と看護(せん妄を含む)
9	5. 7	月	10:25～11:35	坂井 志麻	認知症高齢者の看護
10	5. 8	火	16:35～17:45	坂井 志麻	摂食・嚥下障害と看護①（AL）
11	5.10	木	13:55～15:05	川崎千鶴子	高齢者施設における老年看護
12	5.10	木	15:15～16:25	川崎千鶴子	感染症とその予防
13	5.17	木	12:30～13:40	坂井 志麻	摂食・嚥下障害と看護②
14	5.17	木	13:55～15:05	坂井 志麻	摂食・嚥下障害と看護③
15	5.17	木	15:15～16:25	原沢のぞみ	尿失禁と看護
16	5.18	金	13:55～15:05	坂井 志麻	保健福祉医療制度とケアマネジメント
17	5.23	水	15:15～16:25	坂井 志麻	高齢者と家族の退院支援（移行期支援）①
18	5.23	水	16:35～17:45	坂井 志麻	高齢者と家族の退院支援（移行期支援）②
19	5.28	月	15:15～16:25	長江 弘子	老いと死/高齢者における終末期看護
20	5.28	月	16:35～17:45	長江 弘子	老年看護における倫理的問題
21	5.29	火	12:30～13:40	原沢のぞみ	疾患をもった高齢者の看護過程
22	6. 5	火	12:30～13:40	原沢のぞみ	療養を要する高齢者の生活を整える看護
23	6.11	月	12:30～13:40	原沢のぞみ ^{他*}	高齢者の生活を整える看護技術演習
24	6.11	月	13:55～15:05	原沢のぞみ ^{他*}	高齢者の生活を整える看護技術演習
25	6.11	月	15:15～16:25	原沢のぞみ ^{他*}	高齢者の生活を整える看護技術演習
26	6.12	火	12:30～13:40	三村 千弦	卓越した老年看護実践の実際(各看護の場における)
27	6.13	水	15:15～16:25	原沢のぞみ ^{他*}	疾患をもった高齢者の看護過程演習①
28	6.13	水	16:35～17:45	原沢のぞみ ^{他*}	疾患をもった高齢者の看護過程演習②
	6.20	水	10:25～11:35	長江 弘子	試験

* 原沢のぞみ、坂井 志麻、岩崎 孝子、川原 美紀、長江 弘子

〔小児看護学・各論〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、青木 雅子、奥野 順子、
櫻田 章子、村田知佐恵、山田咲樹子、
高木 志帆

目的

子どもを成長・発達および生活の側面から理解し、健康の増進、苦痛の緩和、健康の回復あるいは穏やかな死に向けて、子どもの看護について理解する。

到達目標

1. 子どもの形態的成長と機能的発達について、「生活行動を支えるもの」の側面から説明できる。
2. 子どもの発達に応じた生活援助と一般的な健康問題について説明できる。
3. 子どもの生活に関わる小児保健と小児医療の現状について説明できる。
4. 健康障害のある子どもの特徴と看護について説明できる。
5. さまざまな状況にある子どもの看護について説明できる。
6. 子どもの特徴をふまえた看護の展開について説明できる。
7. 子どもの看護に必要な基本的看護技術について説明できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ. 健康な子どもの看護	1. 子どものヘルスアセスメント	1) 大きさ・重さ 2) 恒常性を維持するしくみ 3) アセスメントに必要な看護技術
	2. 発達段階に応じた生活援助と健康問題	1) 乳児の生活援助と健康問題 2) 幼児の生活援助と健康問題 3) 小学生・中学生の生活援助と健康問題
	3. 小児保健と小児医療	1) 小児保健医療の概念と目的 2) 小児保健医療の動向 3) 小児の保健医療施策
Ⅱ. 健康障害のある子どもの看護	1. 健康障害のある子どもの特徴と看護	1) 健康障害のある子ども 2) 外来における子どもの看護 3) 入院している子どもの看護 4) 長期療養が必要な子どもの看護
	2. さまざまな状況にある子どもの看護	1) 検査・治療を受ける子どもの看護 2) 症状のある子どもの看護 3) 低出生体重児と医療処置を受ける新生児の看護 4) 重症心身障害のある子どもの看護 5) 虐待を受けた子どもの看護 6) 災害を受けた子どもの看護 7) 終末期にある子どもの看護

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	3. 子どもの看護の展開	1) 子どもの看護の展開の特徴 2) 症状のある子どもの看護の展開

評価方法

試験 60%、課題 40%の割合で評価する

* 詳細はガイダンスにて配付の資料に提示する

教科書

松尾宣武、濱中喜代 編	新体系看護学全書 小児看護学①小児看護概論・小児保健 第5版 (※2年次の小児看護学・概論と同じ教科書を使用する)	メヂカルフレンド社	2014
松尾宣武、濱中喜代 編	新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 第5版 (※2年次の病態学・各論Ⅲと同じ教科書を使用する)	メヂカルフレンド社	2014
山元 恵子 監 この他、ガイダンスおよび講義中に資料を配付し紹介する	写真でわかる小児看護技術アドバンス	インターメディカ	2017

<講義スケジュール>

1	2018. 4.12	木	12:30～13:40	日沼 千尋	ガイダンス
2	4.13	金	10:25～11:35	櫻田 章子	発達段階に応じた生活援助 1
3	4.20	金	10:25～11:35	櫻田 章子	発達段階に応じた生活援助 2 (AL)
4	4.23	月	12:30～13:40	櫻田 章子	発達段階に応じた生活援助 3
5	4.24	火	10:25～11:35	日沼 千尋	小児保健と小児医療
6	4.27	金	10:25～11:35	奥野 順子	子どものヘルスアセスメント 1
7	5. 8	火	9:00～10:10	奥野 順子 ^{他*}	子どものヘルスアセスメント 2 (演習)
8	5. 8	火	10:25～11:35	奥野 順子 ^{他*}	子どものヘルスアセスメント 3 (演習)
9	5.10	木	12:30～13:40	奥野 順子	子どものヘルスアセスメント 4
10	5.11	金	10:25～11:35	青木 雅子	健康障害のある子どもの看護
11	5.14	月	12:30～13:40	山田咲樹子	外来における子どもの看護
12	5.15	火	10:25～11:35	櫻田 章子	入院している子どもの看護 1 (AL)
13	5.18	金	12:30～13:40	櫻田 章子	入院している子どもの看護 2
14	5.22	火	10:25～11:35	高木 志帆	長期療養が必要な子どもの看護
15	5.24	木	12:30～13:40	関森みゆき	低出生体重児と医療処置を受ける新生児の看護 (特別講義)
16	5.25	金	10:25～11:35	奥野 順子	重症心身障害のある子どもの看護
17	5.28	月	12:30～13:40	青木 雅子	検査・治療をうける子どもの看護 1
18	5.28	月	13:55～15:05	青木 雅子	検査・治療をうける子どもの看護 2
19	5.31	木	12:30～13:40	櫻田 章子	虐待を受けた子どもの看護・災害を受けた子どもの看護 1 (AL)
20	5.31	木	13:55～15:05	櫻田 章子	虐待を受けた子どもの看護・災害を受けた子どもの看護 2
21	6. 4	月	10:25～11:35	奥野 順子	症状のある子どもの看護
22	6. 5	火	10:25～11:35	栗田直央子	終末期にある子どもの看護 (特別講義)
23	6. 7	木	10:25～11:35	奥野 順子 ^{他*}	症状のある子どもの看護展開 1 (演習)
24	6.12	火	10:25～11:35	奥野 順子	症状のある子どもの看護展開 2 (AL)
25	6.15	金	10:25～11:35	奥野 順子	症状のある子どもの看護展開 3
26	6.19	火	10:25～11:35	奥野 順子	症状のある子どもの看護展開 4 (AL)
27	6.22	金	10:25～11:35	奥野 順子	症状のある子どもの看護展開 5
	6.26	火	10:25～11:35	日沼 千尋	試験
28	9. 5	水	10:25～11:35	日沼 千尋	まとめ

* 日沼 千尋、青木雅子、奥野 順子、櫻田 章子、村田知佐恵、山田咲樹子、高木志帆

〔母性看護学・各論〕

科目責任者 小川久貴子

科目担当者 小川久貴子、竹内 道子、田幡 純子、
藤方小弥香、大原 明子

目的

女性のライフステージを通した母性看護学が担うヘルスケアについて習得し、現代社会における女性の
取り巻く事象を多角的に解釈できる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 女性のライフステージにおける母性看護学の役割について述べることができる。
2. 母子(児)の生理と経過について述べることができる。
3. 母子(児)の特性を述べることができる。
4. 母子(児)の生活と基本的ニーズを述べることができる。
5. 母子(児)の看護を述べることができる。
6. 母子(児)の特性をふまえた看護の展開ができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 女性のライフステージ を通したヘルスケア	1. 母子(児)の看護の特徴	1) 周産期とは 2) 母子(児)、家族看護の役割
	2. 妊娠期	1) 正常妊娠の生理と経過 2) 妊婦の特性 3) 妊婦の生活と基本的ニーズ 4) 妊婦の看護
	3. 分娩期	1) 正常分娩の経過と分娩の3要素 2) 産婦の特性 3) 産婦の生活と基本的ニーズ 4) 産婦の看護
	4. 産褥期	1) 正常産褥の生理と経過 2) 褥婦の特性 3) 褥婦の生活と基本的ニーズ 4) 褥婦の看護
	5. 新生児期	5) 親子・育児支援 1) 正常新生児の生理と経過 2) 新生児の特性 3) 新生児の生活と基本的ニーズ 4) 新生児の看護

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅱ．母子(児)の特性をふまえた看護の展開	1. 看護過程と看護実践の基礎	1) 看護過程・看護実践に必要とされる基礎的知識を身につけながら母子(児)の看護過程を用いて看護を展開する。

評価方法

試験結果にて100%評価を行う

教科書

森恵美 他 編著	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 第13版	医学書院	2016
森恵美 他 編著	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 第13版	医学書院	2018

<講義スケジュール>

1	2018. 4.13	金	12:30～13:40	竹内 道子	母子(児)の看護
2	4.13	金	13:55～15:05	竹内 道子	正常妊娠の生理と経過
3	4.17	火	12:30～13:40	竹内 道子	妊婦の特性
4	4.17	火	13:55～15:05	竹内 道子	妊婦の生活と基本的ニーズ
5	4.19	木	12:30～13:40	大原 明子	妊婦の看護
6	4.19	木	13:55～15:05	竹内 道子	妊婦の看護
7	4.24	火	12:30～13:40	田幡 純子	正常分娩の経過と分娩の3要素
8	4.27	金	12:30～13:40	田幡 純子	産婦の特性
9	4.27	金	13:55～15:05	田幡 純子	産婦の生活と基本的ニーズ
10	5. 7	月	12:30～13:40	田幡 純子	産婦の看護
11	5. 7	月	13:55～15:05	田幡 純子	産婦の看護
12	5.11	金	12:30～13:40	竹内 道子	正常産褥の生理と経過
13	5.11	金	13:55～15:05	竹内 道子	褥婦の特性
14	5.15	火	13:55～15:05	藤方小弥香	褥婦の生活と基本的ニーズ
15	5.15	火	15:15～16:25	竹内 道子	褥婦の看護
16	5.21	月	12:30～13:40	竹内 道子	親子・育児支援
17	5.25	金	12:30～13:40	藤方小弥香	正常新生児の生理と経過
18	5.25	金	13:55～15:05	藤方小弥香	新生児の生活と基本的ニーズ
19	5.29	火	13:55～15:05	藤方小弥香	新生児の看護
20	6. 5	火	15:15～16:25	竹内道子 _{他*}	看護過程の実践
21	6. 5	火	16:35～17:45		看護過程の実践
22	6.15	金	12:30～13:40		看護過程の実践
23	6.15	金	13:55～15:05		看護過程の実践
24	6.19	火	12:30～13:40		看護過程の実践
25	6.19	火	13:55～15:05		看護過程の実践
26	6.21	木	12:30～13:40		看護過程の実践
27	6.21	木	13:55～15:05		看護過程の実践
28	6.28	木	12:30～13:40		看護過程の実践
	6.29	金	10:25～11:35	小川久貴子	試験

* 小川久貴子、竹内 道子、田幡 純子、藤方小弥香

〔地域看護学・概論〕

科目責任者 清水 洋子

科目担当者 清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、
吉澤 裕世、本田 順子

目的

地域看護学の基盤となる理念や諸理論、地域看護の概要を学び、活動の場と看護職の役割について理解を深める。

到達目標

1. 地域看護学の基盤となる理念、諸理論について説明することができる
2. 地域看護の概要（目的、対象、方法、活動の場）を説明することができる。
3. 地域看護活動の法的基盤について説明することができる。
4. 地域看護活動および教育の歴史的変遷について説明することができる。
5. 地域看護の活躍の場における看護職の役割について述べるすることができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 地域看護学総論	1. 地域看護の概念、歴史、目的と意義	1) 地域看護の概念 2) 地域看護の歴史 3) 地域看護の目的と意義
	2. 地域看護に関連する理念と諸理論	1) ヘルスプロモーション 2) プライマリーヘルスケア 3) ノーマライゼーション 4) エンパワメント 5) well-being 6) 健康課題解決のための資源（ソーシャルキャピタル他）
	3. 地域看護の役割と活動	1) 地域看護の役割 2) 地域看護の活動の場
	4. 地域看護の活躍の場 ①行政保健	1) 地域看護活動の主要な法的基盤 2) 行政看護における保健師の役割と実際
	②産業保健	3) 産業保健における看護職の役割と実際
	③学校保健	4) 学校保健における養護教諭の役割と実際
	④在宅看護	5) 在宅看護における看護職の役割と実際
	⑤まとめ	6) 地域で活動する看護職の役割（演習・発表）

評価方法

試験結果（80%）、学習到達度：課題レポート・感想等（20%）により総合的に評価を行う。

教科書

厚生労働統計協会編	国民衛生の動向 2017/2018	厚生労働統計協会	2017
上野 昌江 ^他	公衆衛生看護学 第2版	中央法規	2016

参考図書

井伊久美子 ^他	新版 保健師業務要覧 2018 年版	日本看護協会出版会	2018
宮崎美佐子 ^他	最新公衆衛生看護学 2017 年版（総論・各論 1・各論 2）		
		日本看護協会出版会	2017
	第4版最新保健学講座（全7巻＋別巻）	メヂカルフレンド社	2015
石垣和子、上野まり編	在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして	南江堂	2017
	改訂 第2版		
標 美奈子 ^他	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論	医学書院	2015
中村裕美子 ^他	標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術	医学書院	2016
松田正己 ^他	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動	医学書院	2018
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第4版データ更新版	インターメディカル	2017
	Public Health Nursing in Japan		
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017
日本健康教育士養成機構編	新しい健康教育	保健同人社	2011

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.12	木	13:55～15:05	清水 洋子	地域看護に関する概念、歴史、目的と意義1
2	4.12	木	15:15～16:25	清水 洋子	地域看護の関する概念、歴史、目的と意義2
3	4.17	火	15:15～16:25	清水 洋子	地域看護の役割と活動1
4	4.17	火	16:35～17:45	清水 洋子	地域看護の役割と活動2
5	4.18	水	15:15～16:25	中田 晴美	地域看護の活躍の場①(行政保健1)
6	4.19	木	15:15～16:25	中田 晴美	地域看護の活躍の場①(行政保健2)
7	4.19	木	16:35～17:45	吉澤 裕世	地域看護の活躍の場②(産業保健)
8	4.20	金	16:35～17:45	吉澤 裕世	地域看護の活躍の場③(学校保健)
9	4.23	月	16:35～17:45	犬飼かおり	地域看護の活躍の場④(在宅看護)
10	4.24	火	13:55～15:05	吉澤 裕世 ^{他*}	地域看護の活躍の場⑤(演習)
	5.14	月	10:25～11:35	清水 洋子	試験

*吉澤裕世、中田晴美、犬飼かおり、本田順子

〔地域看護学・各論〕

科目責任者 清水 洋子
 科目担当者 清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、
 高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子、
 池戸 啓子

目的

地域看護学を構成する行政保健、産業保健、学校保健などの各領域における看護活動および地域看護活動の実践について講義・演習形式で学び、地域における看護職の役割と専門性について理解する。

到達目標

1. 地域看護活動の展開方法および技術について学び、効果的な支援方法について説明することができる。
2. ライフステージと特定の健康課題に対応した地域看護活動について説明することができる。
3. 地域看護活動に関連する法的基盤とその活用、社会資源および組織、機能について説明することができる。
4. 住民と関係者、関係機関との協働や住民が主体的に問題解決できるよう社会資源を活用した支援方法について説明することができる。
5. 住民を対象とした地域看護の様々な領域（行政保健、産業保健、学校保健など）における看護活動の概要について説明することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 地域看護活動の展開方法と技術	1. 地域看護における技術と保健師活動の実践	1) 地域看護活動における技術 2) 保健指導に関する理論 3) 保健指導の目的・機能 4) 健康相談における保健指導 5) 健康診査における保健指導 6) 家庭訪問における保健指導
	2. グループ・地区組織活動	1) グループ・地区組織活動とは 2) グループ・地区組織活動の変遷 3) グループ・地区組織活動の条件 4) グループ・地区組織活動の発展的運営のための活動 5) 地域づくりとグループ・地区組織活動
	3. コミュニティヘルスアセスメント①	1) コミュニティヘルスアセスメントの意義・目的 2) コミュニティヘルスアセスメントの枠組み 3) コミュニティ・アズ・パートナーモデル 4) コミュニティのアセスメント 5) コミュニティの診断と計画 6) コミュニティでの介入
	4. コミュニティヘルスアセスメント②～⑥（演習）	1) コミュニティヘルスアセスメントの実践（演習）
	5. コミュニティヘルスアセスメント⑦～⑨（発表）	1) コミュニティヘルスアセスメントの実践（発表）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅱ．行政保健	6. 地域における住民活動から学ぶ（特講）①②	1) 仲間づくりと関係者のネットワーク 2) 住民との協働活動の発展と支援 3) 地域ケアシステムにおける個人・組織の役割、機能 4) 地域ケアシステムの発展過程
	1. 地域看護活動の仕組みと役割（母子保健）①	1) 日本の母子保健の特徴と歴史 2) 母子保健施策と保健活動
	2. 地域看護活動の仕組みと役割（母子保健）②	1) 主な母子保健活動 2) 母子保健活動の実際と課題
	3. 地域看護活動の仕組みと役割（成人保健）	1) 成人保健の理念、歴史的変遷 2) 成人保健施策と保健活動
	4. 地域看護活動の仕組みと役割（高齢者保健）	1) 高齢者保健の理念、歴史的変遷 2) 高齢者保健施策と保健活動
	5. 精神保健と地域看護活動	1) 地域精神保健に関する法的基盤 2) 地域精神保健対策と保健活動
	6. 感染症と地域看護活動①	1) 感染症対策の動向 2) 感染症保健活動
	7. 感染症と地域看護活動②	1) 結核対策と保健活動 2) 性感染症・エイズ対策と保健活動
	8. 障がいと地域看護活動①	1) 障がい者を取り巻く法的基盤 2) 障がい者支援と保健活動
	9. 障がいと地域看護活動②	1) 難病の定義 2) 難病対策と難病患者の保健活動
	10. 地域包括支援センターの役割と地域看護活動の実際（特講）①②	1) 地域包括支援センターの役割・機能 2) 保健師と他職種による活動の実際
	11. 行政における保健師活動の実際①	1) 保健所における保健師活動 2) 保健センターにおける保健師活動
	12. 行政における保健師活動の実際②	1) 地域保健行政と保健師活動
Ⅲ．産業保健	1. 企業における保健活動の実際（特講）	1) 産業保健の変遷、社会背景 2) 健康診断・疾病予防管理活動 3) 健康教育・健康相談・保健指導 4) 職場のメンタルヘルスケア、復職支援

評価方法

試験結果（70%）、コミュニティヘルスアセスメント演習課題〔グループへの参加態度、発表内容、自己学習課題の提出〕（20%）、課題レポートの提出（10%）により総合的に評価する。

教科書

	国民衛生の動向 2017/2018	厚生統計協会	2017
上野昌江 ^他	公衆衛生看護学第 2 版	中央法規	2016

参考図書

井伊久美子 ^他	新版 保健師業務要覧 2018 年版	日本看護協会出版会	2018
宮崎美佐子 ^他	最新公衆衛生看護学 2016 年版（総論・各論 1・各論 2）	日本看護協会出版会	2016
	第 3 版最新保健学講座（全 7 巻＋別巻）	メヂカルフレンド社	2015
石垣和子、上野まり編	在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして	南江堂	2012
標 美奈子 ^他	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論	医学書院	2015
中村裕美子 ^他	標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術	医学書院	2016
松田正己 ^他	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動	医学書院	2018
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第 4 版データ更新版	インターメディカル	2017
	Public Health Nursing in Japan		
エリザベス T. アンダーソン,	コミュニティアズパートナー	医学書院	2007
ジュディス・マクファーレイン	地域看護学の理論と実際 第 2 版 （金川克子・早川和生監訳）		
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017
高野 陽、柳川 洋 ^他	改訂 7 版 母子保健マニュアル	南山堂	2010
森 晃爾編	産業保健マニュアル	南山堂	2017
中央労働災害防止協会編	労働衛生のしおり（平成 29 年度版）	中央労働災害防止協会	2017
河野啓子	産業看護学	日本看護協会出版会	2016
愛知県健康福祉部 ^他	愛知県母子健康診査マニュアル	愛知県小児保健協会	2012
日本健康教育士養成機構編	新しい健康教育	保健同人社	2011

<講義スケジュール>

1	2018. 4.25	水	15:15～16:25	清水 洋子	地域看護における技術と保健師活動の実際
2	4.25	水	16:35～17:45	中田 晴美	グループ・地区組織活動
3	5. 8	火	12:30～13:40	中田 晴美	コミュニティヘルスアセスメント①
4	5. 8	火	13:55～15:05	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント②(演習)
5	5. 8	火	15:15～16:25	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント③(演習)
6	5. 9	水	16:35～17:45	本田 順子	地域看護活動の仕組みと役割(母子保健)①
7	5.10	木	16:35～17:45	本田 順子	地域看護活動の仕組みと役割(母子保健)②
8	5.11	金	15:15～16:25	吉澤 裕世	地域看護活動の仕組みと役割(成人保健)
9	5.11	金	16:35～17:45	高 紋子	地域看護活動の仕組みと役割(高齢者保健)
10	5.14	月	13:55～15:05	犬飼かおり	障がい者と地域看護活動①
11	5.14	月	15:15～16:25	犬飼かおり	障がい者と地域看護活動②
12	5.15	火	12:30～13:40	本田 順子	感染症と地域看護活動①
13	5.17	木	16:35～17:45	本田 順子	感染症と地域看護活動②
14	5.18	金	15:15～16:25	中田 晴美	精神保健と地域看護活動
15	5.18	金	16:35～17:45	吉澤 裕世	災害時における地域看護活動
16	5.21	月	13:55～15:05	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント④(演習)(AL)
17	5.21	月	15:15～16:25	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント⑤(演習)(AL)
18	5.21	月	16:35～17:45	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント⑥(演習)(AL)
19	5.24	木	13:55～15:05	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント⑥(発表)
20	5.24	木	15:15～16:25	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント⑦(発表)
21	5.24	木	16:35～17:45	中田 晴美他*1	コミュニティヘルスアセスメント⑧(発表)
22	6. 4	月	13:55～15:05	高岡 宏他*2	地域における住民活動から学ぶ(特講)①
23	6. 4	月	15:15～16:25	高岡 宏他*2	地域における住民活動から学ぶ(特講)②
24	6. 5	火	13:55～15:05	竹本 知恵	企業における保健活動の実際(特講)
25	6. 7	木	12:30～13:40	寺西 秀美	地域包括支援センターの役割・機能(特講)①
26	6. 7	木	13:55～15:05	寺西 秀美	地域包括支援センターの役割・機能(特講)②
27	6.28	木	13:55～15:05	池戸 啓子	行政における保健師活動の実際①
28	6.28	木	15:15～16:25	池戸 啓子	行政における保健師活動の実際②
	7. 4	水	10:25～11:35	清水 洋子	試験

*1中田晴美、清水洋子、犬飼かおり、吉澤裕世、高紋子、本田 順子

*2 高岡 宏、認知症サポーター(住民ボランティア)

〔精神看護学・各論〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 田中美恵子、小山 達也、嵐 弘美
異儀田はづき、飯塚あつ子、濱田 由紀

目標

精神状態に影響を受けた個人の生活行動および人間関係に焦点を置き、精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および一旦精神障害を来した人々に対する看護援助について学び、さらに広く看護全般に活用しうる精神看護学の知識と技術を習得する。

到達目標

1. 精神状態のアセスメントならびに対人関係とコミュニケーションの技術について理解し、看護への活用について説明できる。
2. 薬物療法、精神療法・集団療法、家族援助、リハビリテーション、訪問看護について理解し、看護への活用について説明できる。
3. 統合失調症、双極性障害・抑うつ障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害・摂食障害、不安障害、強迫性障害、心的外傷およびストレス関連障害、発達障害、身体合併症の特徴と看護の内容について説明できる。
4. 精神科病院体験演習を通じて、精神科病院の概要を説明でき、患者とのコミュニケーションを実践することができる。
5. セルフヘルプグループや当事者活動について、当事者の語りを聞くことで、看護に対象者の視点を取り入れることの重要性を理解できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 援助技術	1. 精神状態のアセスメント	1) 精神状態のアセスメントと看護過程 2) 精神状態のアセスメントの構成要素 3) 精神状態とセルフケア
	2. 対人関係とコミュニケーション	1) 患者－看護師関係 2) 治療的コミュニケーション 3) コミュニケーションの再構成
II. 援助方法	1. 薬物療法と看護	1) 薬物療法の概観 2) 薬物療法の作用と副作用 3) 薬物療法と看護
	2. 精神療法・集団療法と看護	1) 精神療法・集団療法の概観 2) 来談者中心療法 3) 精神分析療法 4) 精神療法・集団療法と看護
	3. 家族への援助	1) 精神障害者の家族の現状 2) 家族心理教育 3) 看護における援助方法の実際
	4. リハビリテーション	1) 精神科リハビリテーションとは 2) リハビリテーション活動の実際 3) リハビリテーションと看護

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 対象と看護	5. 訪問看護	1) 訪問看護の目的と機能 2) 訪問看護の実際
	1. 統合失調症患者への看護（急性期）	1) 統合失調症急性期患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	2. 統合失調症患者への看護（慢性期）	1) 統合失調症慢性期患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	3. 双極性障害・抑うつ障害患者への看護	1) 双極性障害・抑うつ障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	4. アルコール依存症・薬物依存症患者への看護	1) アルコール依存症患者の特徴 2) 薬物依存症患者の特徴 3) 看護の特徴と実際
	5. パーソナリティ障害・摂食障害患者への看護	1) パーソナリティ障害・摂食障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	6. 不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス関連障害患者への看護	1) 不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス関連障害患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	7. 発達障害（神経発達症群）への看護	1) 発達障害（神経発達症群）の特徴 2) 看護の特徴と実際
Ⅳ. 体験演習	8. 身体合併症患者への看護	1) 身体合併症患者の特徴 2) 看護の特徴と実際
	1. 精神科病院体験演習	1) 精神科病院の概要の理解 2) 患者との関わりの実際
Ⅴ. 対象者の視点	1. セルフヘルプグループ	1) セルフヘルプグループとは
	2. 当事者活動	2) セルフヘルプグループ活動の実際 3) 当事者体験 4) 当事者の主張

評価方法

出席状況 10%、見学実習レポート 20%、課題提出 70%により総合的に評価する。

教科書

田中美恵子 編著 「精神看護学第2版」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2015

参考図書

講義中に適宜紹介する

＜講義スケジュール＞

1	2018.10.22	月	12:30～13:40	異儀田はづき	精神状態のアセスメント1
2	10.22	月	13:55～15:05	異儀田はづき	精神状態のアセスメント2
3	12.10	月	12:30～13:40	異儀田・飯塚	対人関係とコミュニケーション1
4	12.10	月	13:55～15:05	異儀田・飯塚	対人関係とコミュニケーション2
5	12.10	月	15:15～16:25	異儀田・飯塚	対人関係とコミュニケーション3
6	12.12	水	15:15～16:25	濱田 由紀	精神療法・集団療法と看護
7	12.12	水	16:35～17:45	小山 達也	薬物療法と看護
8	12.14	金	9:00～10:10	田中美恵子 _{他*}	精神科病院一日見学実習
9	12.14	金	10:25～11:35	田中美恵子 _{他*}	精神科病院一日見学実習
10	12.14	金	12:30～13:40	田中美恵子 _{他*}	精神科病院一日見学実習
11	12.14	金	13:55～15:05	田中美恵子 _{他*}	精神科病院一日見学実習
12	12.14	金	15:15～16:25	田中美恵子 _{他*}	精神科病院一日見学実習
13	2019. 1. 7	月	9:00～10:10	濱田 由紀	リハビリテーション
14	1. 7	月	10:25～11:35	濱田 由紀	訪問看護
15	1. 8	火	15:15～16:25	小山 達也	家族への援助
16	1.10	木	12:30～13:40	濱田 由紀	統合失調症(急性期)患者への看護
17	1.10	木	13:55～15:05	飯塚あつ子	統合失調症(慢性期)患者への看護
18	1.18	金	12:30～13:40	小山 達也	双極性障害・抑うつ障害患者への看護
19	1.25	金	9:00～10:10	嵐 弘美	アルコール依存・薬物依存患者への看護
20	1.25	金	10:25～11:35	飯塚あつ子	パーソナリティ障害・摂食障害患者への看護
21	1.28	月	9:00～10:10	嵐 弘美	不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス関連障害への看護
22	1.28	月	10:25～11:35	嵐 弘美	身体合併症患者への看護
23	1.30	水	9:00～10:10	小山 達也	発達障害への看護
24	1.30	水	10:25～11:35	濱田 由紀	セルフヘルプグループ
25	1.31	木	12:30～13:40	田中美恵子	対象者の視点:当事者活動
26	2. 4	月	12:30～13:40	田中美恵子 _{他*}	グループワーク
27	2. 4	月	13:55～15:05	田中美恵子 _{他*}	グループワーク
28	2. 4	月	15:15～16:25	田中美恵子 _{他*}	グループワーク

* 田中美恵子、小山 達也、嵐 弘美、異儀田はづき、飯塚あつ子、濱田 由紀

〔在宅看護論〕

科目責任者 清水 洋子

科目担当者 清水 洋子、日沼 千尋、坂井 志麻、
犬飼かおり、吉澤 裕世、高 紋子、
本田 順子、濱田 由紀

目的

在宅看護を構成する概念、理論的基盤と在宅看護実践の各専門領域への発展、および在宅ケアで用いる看護技術について学び、在宅ケア看護活動の実際を理解する。

到達目標

1. 在宅看護の対象者と生活の場の特徴を説明することができる。
2. 在宅ケアシステムの概要を説明することができる。
3. 在宅ケア関連法規の概要とケアマネジメント内容を説明することができる。
4. 訪問看護ステーションにおける活動の実際を説明することができる。
5. 在宅における生活支援看護技術の内容を説明することができる。
6. 在宅療養者に対する状態別（精神・子ども・認知症・医療管理）看護の特徴を説明することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 在宅看護の特徴	1. 在宅看護の対象者・看護の提供方法・倫理的課題	1) 疾病・障害を持つ人と家族 2) 外来看護・訪問看護・通所施設での看護提供 3) 倫理（自己決定支援・権利擁護・虐待防止）
	2. 在宅ケア看護の概念と在宅ケアシステム	1) 在宅ケアにおける在宅看護の歴史 2) 在宅ケアチームと看護の役割 3) 在宅ケアシステムを形成する過程と要件
	3. 家族看護の概念と理論	1) 家族看護学の歴史と定義 2) 家族看護学に基づくアセスメントと援助方法 3) 家族看護における看護職の役割
	4. 在宅看護を支える制度のしくみとケアマネジメント	1) 在宅看護に関わる制度（介護保険制度を除く） 2) 在宅看護に関わる制度の動向 3) 介護保険制度の仕組みと高齢者介護 4) 介護保険制度の問題点と改善の動向 5) 在宅ケアマネジメントの仕組み・プロセス・質評価
	5. 退院支援	1) 退院支援のプロセスと自己決定支援 2) 退院支援に関わる職種と協働 3) 医療機関・施設・地域の連携システム
	6. 在宅の安全管理	1) 在宅の感染防止ガイドライン 2) 在宅生活の転倒防止・閉じこもり防止 3) 病状・病態の予測

在宅看護論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅱ. 訪問看護ステーションの理解	1. 訪問看護ステーションの歴史と機能	1) 訪問看護ステーションの歴史 2) 訪問看護ステーションの機能 3) 訪問看護ステーションの法的枠組み 4) 訪問看護サービスの提供
Ⅲ. 在宅における生活支援看護技術	1. 在宅生活支援技術	1) 食・嚥下・栄養 2) 排泄・失禁 3) 清潔 4) 移動
	2. 在宅生活支援における看護過程	1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅看護過程の方法
Ⅳ. 在宅療養者に対する状態別看護	1. 精神障害者および認知症患者に対する訪問看護活動	1) 在宅ケアを利用する精神障害者・認知症患者のケアニーズの特徴 2) コミュニケーション技術 3) 症状アセスメント 4) 社会資源の活用
	2. 子どもの療養者に対する訪問看護活動	1) 在宅ケアを利用する子どもと家族のケアニーズの特徴 2) 子どもと家族の発達アセスメント 3) 社会資源の活用
	3. 在宅ホスピス緩和ケア（特講）	1) 地域・在宅における緩和ケアの実践 2) 症状マネジメント 3) 看取りのケアと遺族ケア
	4. 医療管理が必要な在宅療養者に対する看護	1) 薬物療法 2) 在宅酸素療法 3) 在宅人工呼吸器療法 4) 膀胱留置カテーテル療法 5) 胃ろう・経管栄養療法 6) 在宅中心静脈栄養療法 7) 褥創マネジメント

評価方法

試験結果（70%）、課題レポート（30%）により総合的に評価を行う。

教科書

河野あゆみ編集 在宅看護論 メジカルフレンド社 2016

参考図書

杉本正子	第6版在宅看護論	ヌーヴェルヒロカワ	2016
木下由美子	新版在宅看護論	医歯薬出版	2009
角田直枝	スキルアップのための在宅看護マニュアル	学研	2005
厚生労働統計協会	国民の福祉と介護の動向 2017/2018	厚生労働統計協会	2017
厚生労働統計協会	国民衛生の動向 2017/2018	厚生労働統計協会	2017
水野敏子 ^他	最新老年看護学第3版 2017年版	日本看護協会出版会	2016
石垣和子、上野まり編	在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 改訂第2版	南江堂	2017

＜講義スケジュール＞

1	2018. 6.12	火	13:55～15:05	清水 洋子	在宅看護の概念・対象・方法・倫理的課題・在宅ケアシステム①
2	6.12	火	15:15～16:25	清水 洋子	在宅看護の概念・対象・方法・倫理的課題・在宅ケアシステム②
3	6.13	水	9:00～10:10	犬飼かおり	社会制度と保障(介護保険以外)
4	6.14	木	15:15～16:25	高 紋子	介護保険法とケアマネジメント①
5	6.14	木	16:35～17:45	高 紋子	介護保険法とケアマネジメント②
6	6.15	金	15:15～16:25	坂井 志麻	退院支援のプロセスと地域連携システム
7	6.18	月	12:30～13:40	坂井 志麻	在宅生活を支援する技術と看護過程(演習)①
8	6.19	火	15:15～16:25	犬飼かおり	家族看護の概念と理論
9	6.25	月	12:30～13:40	高 紋子	在宅生活を支援する技術と看護過程(演習)②
10	6.25	月	13:55～15:05	犬飼かおり	在宅生活を支援する技術と看護過程(演習)③
11	6.26	火	12:30～13:40	秋山 正子	訪問看護ステーションの活動の実際と在宅ホスピス緩和ケア①(特講)
12	6.26	火	13:55～15:05	秋山 正子	訪問看護ステーションの活動の実際と在宅ホスピス緩和ケア②(特講)
13	6.26	火	15:15～16:25	秋山 正子	訪問看護ステーションの活動の実際と在宅ホスピス緩和ケア③(特講)
14	6.29	金	12:30～13:40	高 紋子 _{他*}	在宅の安全管理と医療管理①
15	6.29	金	13:55～15:05	高 紋子 _{他*}	在宅の安全管理と医療管理②
16	6.29	金	15:15～16:25	高 紋子 _{他*}	在宅の安全管理と医療管理③
17	7. 3	火	13:55～15:05	日沼千尋・梶原厚子	小児疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム①(特講)
18	7. 3	火	15:15～16:25	梶原 厚子	小児疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム②(特講)
19	7. 5	木	12:30～13:40	濱田 由紀	精神疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム①
20	7. 5	木	13:55～15:05	濱田 由紀	精神疾患患者への訪問看護活動と在宅ケアシステム②
	7.10	火	10:25～11:35	清水 洋子	試験

* 高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

〔成人看護学実習Ⅱ〕

科目責任者 笹原 朋代

科目担当者 笹原 朋代、小泉 雅子、三條真紀子、
原 美鈴、三浦美奈子、小林 礼実、
鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代、
河合 育世

目的 対象者の健康レベルを理解し、個別性を踏まえて健康レベルの改善・維持・増進やQOL向上を目指す看護を実践するための基礎的能力を養う。

到達目標

- 健康障害をもつ対象者の疾患、検査、治療および経過を統合的に捉え、看護理論を用いて看護を実践できる。
 - 看護理論を用いて、身体的・心理的・社会的側面および時間的経過をふまえ、対象者を統合的にアセスメントすることができる
 - 全体像を把握し、看護の方向性を導き出すとともに、顕在的・潜在的な看護問題を抽出し、優先順位を考慮しながら看護計画を立案することができる
 - 安全・安楽に配慮しながら看護援助を実施することができる
 - 実施した看護を看護目標に照らして評価し、計画の妥当性を検討し、追加・修正することができる
- 実施した看護、自分の考えについて、看護師および担当教員に報告・相談できる
- 円滑な実習に向けて実習グループのメンバーと協力し、積極的に学習活動をすすめることができる
- 保健医療チームの一員として、看護師および他職種の役割を知り、協働の必要性について述べるができる
- 医療人として、事故防止・安全・感染予防・生命の尊厳とプライバシーの保護の責任・学生自身の体調管理など、倫理的姿勢・態度について考え、行動することができる
- 自己の課題達成に向けて目標を設定し、学習を計画して積極的に取り組み、実習を振り返り、今後の課題を見出し、述べるができる
- 実習を通しての学びや自己の看護観について、論理的に記述できる

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 対象者の統合的理解	1. 対象者を全人的に理解する	1) 成人期にある対象者の特徴 2) 疾患・検査・治療・経過の理解 3) ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズの枠組みを用いた情報収集およびアセスメント 4) 対象の個別性や予測性をふまえた看護問題の抽出
II. 個別性をふまえた看護実践	2. 根拠に基づいた看護を実践する 3. 援助する者として倫理に基づいた適切な判断や行動について考え、実践する	1) 根拠に基づいた主体的看護実践 2) 安全・安楽に配慮した看護援助 3) 実施した看護実践の評価 4) 健康状態に合わせた具体策の追加・修正 1) 看護者の倫理綱領の理解 2) 事故防止・安全・感染予防・生命の尊厳とプライバシーの保護の責任・学生自身の体調管理など倫理的実践

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 保健医療チームにおける看護師および他職種の役割と協働の理解	4. 保健医療チームの一員としての看護師および他職種の役割と協働について考える	1) 看護チームメンバー間の情報共有および連携 2) 多職種間の情報共有および連携 3) 実習グループの活動への積極的な参加
Ⅳ. 自己の学習課題を発展させる主体的取り組み	5. 学習者としての自己の課題を明確にし、積極的に取り組む	1) 自己の省察 2) 課題達成に向けた積極的な学習計画・行動 3) 学習者としての責任ある態度、行動 4) 教員および指導者への報告、相談 5) 自己の看護観の言語化

実習方法

少人数のグループに分かれ、1人以上の対象者を受け持ち、指導者の下に看護を実践する

成績評価の方法

出席日数、実習目標到達度（100％）により総合的に評価する

教科書・参考図書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

<講義スケジュール>

	2018. 9. 3(月) 9:00～10:10	合同オリエンテーション
	2018. 9. 3(月) 10:25～11:35	オリエンテーション

A グループ	2018. 9.10(月)～ 9. 28(金)	病棟実習
B グループ	9.10(月)～ 9. 28(金)	病棟実習
C グループ	10.29(月)～11.16(金)	病棟実習
D グループ	10.29(月)～11.16(金)	病棟実習

〔老年看護学実習〕

科目責任者 長江 弘子
 科目担当者 長江 弘子、坂井 志麻、原沢のぞみ、
 岩崎 孝子、川原 美紀

目的

急性期に対応した医療機関に入院している高齢者と、その家族の看護に必要な基礎的実践能力を養うとともに、自己の老年看護観を深める。

到達目標

1. 加齢に伴う変化、健康レベル、日常生活および本人を取りまく環境などから、高齢者を統合的に理解することができる。
2. 高齢者が望んでいる状態を理解し、高齢者の“その人らしさ”や“その人の持てる力”を活かした援助方法を考えることができる。
3. 安全、安楽、自立の視点から、状況に即した看護を予測的に実施することができる。
4. 行った実践を事実に基づいて評価し、より個別的な看護を追及することができる。
5. 急性期に対応した医療機関に入院している高齢者の継続ケアを円滑に推進するために、人的・社会的資源などをもとにケアを包括的に考えることができる。
6. 高齢者と家族の意思、価値観および権利を尊重し、看護者としての倫理的責務を遂行することができる。
7. 専門職をめざす者として、自己を客観的に評価し、自己成長に必要な課題に対して主体的に努力することができる。
8. 医療チームの一員としての自覚を持ち、信頼関係を築くように努力することができる。
9. 実習体験をもとに、老年看護について自己の考えを深めることができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 高齢者の統合的理解	1. 加齢に伴う変化、健康レベル、日常生活および本人を取りまく環境などから、高齢者を統合的に理解することができる。	1) 加齢に伴う身体的変化や病態、治療侵襲および障害による日常生活動作への影響を具体的に・個別的に理解する。 2) 高齢者その人の生活史をふまえ、現在の発達課題や心理状態、家庭や地域社会での役割を理解する。 3) 身体面・精神面・社会面を統合して全体像を捉え、高齢者の生命維持や生活過程を阻害・促進する要因について理解する。
II. 高齢者への看護実践	1. 高齢者が望んでいる状態を理解し、高齢者の“その人らしさ”や“その人の持てる力”を生かした援助方法を考えることができる。	1) 高齢者の状態、治療方針、看護方針および高齢者本人や家族の希望を理解し、高齢者と家族の QOL を考えた看護目標を立てる。 2) 高齢者個人の脆弱な部分を補うのみでなく、高齢者がその人らしくいられる、その人にふさわしい方法や、健全な部分（もてる力）を

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 看護師としての責任の自覚	2. 安全、安楽、自立の視点から、状況に即した看護を予測的に実施することができる。	活かした看護計画を立案する。 1) 高齢者の自立を促す方法を考える。 2) 病状の変化や二次障害の危険性を予測し安全を考慮した看護を実践する。 3) 廃用性症候群、病態および治療侵襲などから生じる合併症等の予防に努める。 4) 高齢者その人にとっての適切な活動と休息を考慮し、生活リズムを調整する。
	3. 行った実践を事実にもとづいて評価し、より個別的な看護を追求することができる。	1) 看護実践によって得られた情報にもとづいて、看護目標の達成度（目標は達成されたのか、されなかったのか）とその要因を客観的・全体的に分析する。 2) 高齢者本人が望んでいる状態と現実とのギャップに対して、より個別的に対応していくための看護の方向性を検討し、次の看護実践に活かす。
	4. 急性期に対応した医療機関に入院している高齢者の継続ケアを円滑に推進するために、人的・社会的資源などをもとに包括的に考えることができる。	1) 高齢者の入院前の生活や役割などから、入院に伴う影響を統合的に理解する。 2) 入院時より退院後の生活について考え、高齢者や家族に必要とされる援助について考える。 3) ケアが継続されるためのサービスや制度などについて考える。
	5. 高齢者と家族の意志、価値観および権利を尊重し、看護者としての倫理的責務を遂行することができる。	1) 高齢者や家族の意志を確認し、実施する看護援助について必要な情報を説明する。 2) 高齢者や家族のプライバシーを守秘し、責任をもって記録物の管理を行う。 3) 自身の行った看護とその結果を、事実にもとづいて報告する。 4) 代弁者（advocator）としての看護者の役割を理解する。
Ⅲ. 看護師としての責任の自覚	1. 専門職をめざす者として、自己を客観的に評価し、自己成長に必要な課題に対して主体的に努力することができる。	1) 日々の実習を通して客観的に自己を振り返り、課題を明確にする。 2) 主体的かつ誠実な態度で、自己の課題（不足している知識・技術を含む）に取り組む。 3) カンファレンスなどを通して、自己の実践や体験について分かりやすく説明する。 4) カンファレンスを主体的・協働的に運営する。
	2. 医療チームの一員としての自覚を持ち、信頼関係を築くよう努力することができる。	1) 計画したケアについて指導看護師に的確に説明し調整を受ける。 2) 調整をふまえて計画したケアを修正し、実施する。 3) 自分の行ったケアについて、簡潔明瞭にアセスメントをふまえてスタッフに報告する。

大項目	中項目	小項目
Ⅳ. 老年看護観の追求	1. 実習体験をもとに、老年看護について自己の考えを深めることができる。	1) 2 週間の実習体験をもとにテーマをしばって、老年看護についての自己の考えを、レポートの記載規定に従って記述する。

実習方法

急性期に対応した医療機関に入院している高齢者 1 名を受け持って看護を実践する。詳細は、老年看護学実習の実習要項を参照。

成績評価の方法

実習内容（記録を含む）80%、レポート 20%として評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な参考図書を提示する。

<講義スケジュール>

	2018. 9. 3(月) 9:00～10:10	合同オリエンテーション
	2018. 9. 4(火) 13:55～16:25	オリエンテーション

D グループ	2018. 9.10(月) ～ 9.21(金)	病棟実習
C グループ	9.25(火) ～10. 5(金)	病棟実習
B グループ	10. 9(火) ～10.19(金)	病棟実習
A グループ	11.26(月) ～12. 7(金)	病棟実習

〔小児看護学実習〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、青木 雅子、奥野 順子、
櫻田 章子

目的

健康障害のある子どもを理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。

到達目標

1. 健康障害のある子どもについて、成長・発達をふまえた生活行動の側面から述べることができる。
2. 健康障害のある子どもの看護上の問題と援助について述べるができる。
3. 健康障害のある子どもの状態に適した看護を実践し、評価することができる。
4. 看護の学習者として、自己の能力を発展させる取り組みができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 健康障害のある子どもを看護する基礎的能力	1. 健康障害のある子どもの理解	1) 入院前の生活行動 2) 発達段階をふまえた生活行動 3) 入院による生活行動への影響 4) 検査・治療による生活行動への影響 5) 症状による生活行動への影響
	2. 健康障害のある子どもの看護の理解	1) 発達段階に応じた看護 2) 成長・発達を促す看護 3) 健康状態に応じた看護 4) 入院中の生活に応じた看護 5) 退院後の生活をふまえた看護
	3. 健康障害のある子どもの状態に適した看護の実践と評価	1) 発達段階に適した実践と評価 2) 健康状態に適した実践と評価 3) 生活に合わせた実践と評価 4) 看護のプロセスの評価 5) 子どもの権利を尊重した関わり
	4. 自己の能力を発展させる取り組み	1) 学習者としての責任ある態度 2) 自己の能力の客観的な判断 3) 指導者への適宜適切な相談 4) 他職種と関連させた看護の役割の理解

実習方法

入院している子どもを受け持って実習する。詳細は小児看護学実習要項を参照のこと。

実習評価

小児看護学実習ルーブリックを用いて、到達目標ごとに実習内容（記録内容も含む）を 100%の割合で評価する。

<講義スケジュール>

	2018. 9. 3(月) 9:00～10:10	合同オリエンテーション
	2018. 9. 5(水)12:30～13:40	オリエンテーション

C グループ	2018. 9.10(月) ～ 9.21(金)	病棟実習
A グループ	10. 9(火) ～10.19(金)	病棟実習
B グループ	10.29(月) ～11. 9(金)	病棟実習
D グループ	11.26(月) ～12. 7(金)	病棟実習

〔母性看護学実習〕

科目責任者 小川久貴子

科目担当者 小川久貴子、土江田奈留美、竹内 道子、
抜田 博子、飯塚 幸恵、田幡 純子、
鈴木小弥香

目的

母子(児)を理解して看護を実践する基礎的能力を養い、女性のライフステージを通じた健康支援における母性看護の役割を理解する。

到達目標

1. 妊婦の特性と提供されている看護について述べることができる。
2. 産婦の特性と提供されている看護について述べることができる。
3. 褥婦および新生児の身体的、心理的、社会的状況から必要な情報を収集し、述べることができる。
4. 褥婦および新生児の情報について知識を活用してアセスメントし、述べることができる。
5. 褥婦および新生児のアセスメントから特性に応じた看護を考え、述べることができる。
6. 褥婦および新生児に必要な看護を、基本的母性看護技術を用いて実践できる。
7. 母子の特性をふまえ、安全・安楽に配慮して援助できる。
8. 母子の権利・プライバシーを尊重し、倫理的に配慮して援助できる。
9. 保健医療チームの一員として責任ある誠実な態度で実習できる。
10. 母性看護学実習をふまえ、自己の能力を発展させる取り組みができる。
11. 女性のライフステージを通じた健康支援における、母性看護の役割について考え、述べるができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I.母性看護の基礎的実践	1. 妊婦の特性や看護の理解と実践	1) 妊婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 胎児の健康、発育状況の理解 3) 妊婦および胎児の特性をふまえた看護の理解 4) 妊婦に必要な基本的看護技術の習得 5) 妊婦と家族の価値観、権利を尊重した援助の理解
	2. 産婦の特性や看護の理解と実践	1) 産婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 産婦の特性をふまえた看護の理解 3) 産婦に必要な基本的看護技術の理解
	3. 褥婦および新生児の特性や看護の理解と実践	1) 褥婦の身体的、心理的、社会的状況の理解 2) 新生児の生理的変化の理解 3) 褥婦および新生児の特性をふまえた看護の理解 4) 褥婦および新生児に必要な基本的看護技術の習得 5) 褥婦および新生児の看護過程を用いた看護の展開 6) 褥婦および新生児の特性をふまえ、安全・安楽に配慮した援助 7) 褥婦と家族の意思や価値観、権利を尊重した援助 8) 親子関係形成過程を尊重した援助 9) 退院後に健康で快適な生活に適応できる援助

母性看護学実習

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅱ.女性のライフステージを通した健康支援の理解	4. 母性看護における自己の能力を発展させる取り組み	1) 地域における母子(児)とその家族に対するサポートシステムの理解 2) ライフサイクルにおける出産体験の意味の考察 3) 保健医療チームの一員として責任のある誠実な態度
	1. 母性看護の役割と課題における実践的な理解	1) 女性のリプロダクティブヘルス/ライツの視点からの課題 2) 女性の健康支援に対する保健医療者の関わり、看護の役割、他職種との連携 3) 女性のライフステージを通した健康支援における母性看護の役割

実習方法

産科病棟および外来で実習を行う（母性看護学実習 要項を参照）。

評価方法

実習到達目標の達成87%、実習態度12%、出席と記録物提出の状況1%より総合的に評価を行う。

<講義スケジュール>

	2018. 9. 3(月) 9:00～10:10	合同オリエンテーション
	2018. 9. 4(火)12:30～13:40	オリエンテーション

D グループ	2018.10. 9(火)～10.19(金)	病棟実習
A グループ	10.29(月)～11. 9(金)	病棟実習
B グループ	11.12(月)～11.22(木)	病棟実習
C グループ	11.26(月)～12. 7(金)	病棟実習

〔地域看護学実習Ⅰ〕

科目責任者 清水 洋子

科目担当者 清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、
高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

目的

地域で健康問題を持ちながら生活する（終末期を含む）個人・家族を対象とし、対象者の健康な生活を実現するために必要な看護活動の実際を体験する。さらに体験を通して個人・家族が属している地域の健康問題と地域ケアシステムを活用した地域看護活動を考究し、地域で活動する看護職の役割と機能について理解を深める。

到達目標

1. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族にとっての健康な生活を説明できる。
2. 対象者の健康課題に応じた看護活動の計画・実施・評価の過程を通し、健康な生活を実現するために必要な看護活動を説明できる。
3. 複数の対象者の生活の中から、共通の健康特性や健康課題を見出し、共通する健康特性を持つ集団や地域全体に共通する健康課題を発展的*1にとらえ、とらえた健康課題に対する地域ケアシステムを活用した地域看護活動を説明できる。
4. 地域で活動する看護職と地域看護活動の役割と意義を説明できる。

*1 発展的にとらえるとは、複数の対象者の生活の中から見出した共通する健康特性や健康課題を、集団や地域全体に共通する健康特性や健康問題としてとらえなおすことである。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ．地域看護活動における基礎的な看護実践能力	1. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族にとっての健康な生活の理解	1) 対象者の生活状況、生活者としての思い、生活の場の特性 2) 対象者の健康状態のアセスメント 3) 対象者の健康状況が生活に及ぼす影響 4) 対象者が望む生活を達成するために対象者が持っている強み 5) 対象者の健康課題の抽出
	2. 地域で健康問題を持ちながら生活する個人・家族の健康な生活を実現するために必要な看護活動とケアに関わる社会資源の理解	1) 対象者の健康問題に対する看護の計画 2) 対象者の健康問題に対し現在提供されている看護の必要性とその根拠 3) 既存の知識と技術を活用した対象者に対する看護の実施と評価 4) 対象者の健康な生活を支援する看護職の役割と多職種・関係機関との協働
	3. 共通する健康特性を持つ集団や地域全体に共通する健康課題の把握と地域ケアシステムを活用した地域看護活動の理解	1) 複数の対象者の生活の中から見出す共通の健康特性や健康課題 2) 地域看護の対象となる共通の健康特性を持つ集団および地域全体の健康課題 3) とらえた健康課題の解決に必要な保健・医療・福祉政策・制度

<講義スケジュール>

	2018. 9. 3(月) 9:00～10:10	合同オリエンテーション
	9. 3(月)12:30～16:25	地域看護学実習Ⅰ 学内総合オリエンテーション
	9. 6(木)12:30～17:45	白十字訪問看護ステーション ・高齢者在宅サービスセンターオリエンテーション
	9. 7(金)12:30～17:45	高齢者在宅サービスセンターオリエンテーション
D グループ	2018. 9.25(火)～10. 5(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
C グループ	10. 9(火)～10.19(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
A グループ	11.12(月)～11.22(木)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習
B グループ	11.26(月)～12. 7(金)	訪問看護ステーション・高齢者在宅サービスセンター実習

〔健康教育学〕（選択科目）

科目責任者 清水 洋子

科目担当者 清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、
高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

目的

健康教育の意義および健康教育に必要な基礎知識を学ぶとともに、効果的な健康教育の方法について、演習を通して理解する。

到達目標

1. 健康教育の意義、基礎理論について説明することができる。
2. 各ライフステージや様々な場における健康教育の方法と実践例について説明することができる。
3. 健康教育を行う際の倫理的配慮について説明することができる。
4. 個別健康教育・健康相談のための知識・技術について説明することができる。
5. 集団への健康教育について企画・実施・評価の一連の過程について展開することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ. 健康教育学総論	1. 健康教育の意義・理論	1) 健康教育の意義 2) 健康教育の基礎理論
	2. 健康教育の方法	1) 健康教育のねらい・方法 2) 健康教育のプロセス 3) 健康教育の評価
	3. 健康教育の実際	1) 各ライフステージ（学童期、思春期、育児期、壮年期、老年期）の健康課題 2) 健康教育実践例 3) 家庭・地域における健康教育 4) 職場における健康教育 5) 学校における健康教育
	4. 健康教育における倫理的配慮	1) プライバシー保護と倫理的配慮 2) 健康情報の有効活用
Ⅱ. 健康教育学各論 個別健康教育・健康相談のための知識・技術	1. 疾病構造の変化と予防医療	1) 日本における疾病構造の変化 2) 予防の概念と予防医療の目的・方法 3) 心身の疾病予防管理
	2. 予防医療の実際	1) 健診・検診の目的・種類・データの活用 2) 特定健康診査・特定保健指導の目的・方法 3) 特定健康診査における健康相談・個別保健指導の実際
	3. 生活習慣改善における健康相談・個別保健指導の実際	1) 運動・身体活動の改善指導の方法と実際 2) 栄養・食事改善の指導の方法と実際 3) 禁煙の勧奨・支援の方法と実際

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 集団への健康教育の展開 (グループワーク)	1. 健康教育 演習 (1)～(10)	1) グループニング 2) 演習テーマの設定 (ライフステージ、ライフスタイル、メンタルヘルス、疾病等の要因を考慮) 3) 健康教育実践に必要な基礎知識の学習 4) 健康教育教案作成 (計画書・シナリオ) 5) 教材の作成・選択
	2. 健康教育 演習 (11)～(14)	1) 健康教育ロールプレイ (発表) 2) 健康教育ロールプレイ (相互評価)
	3. 健康教育 まとめ	1) 健康教育の評価 2) 総合評価を踏まえた健康教育の再構成

評価方法

自己学習課題レポート (10%)、授業への参加態度 (20%)、演習成果発表内容 (計画用紙 30%・プレゼンテーション 40%) により総合的に評価する。

教科書

日本健康教育士養成機構編 新しい健康教育 保健同人社 2011

参考図書

井伊久美子 ^他	新版 保健師業務要覧 2018 年版	日本看護協会出版会	2018
中村裕美子 ^他	標準保健師講座 2 地域看護技術	医学書院	2010
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第 4 版データ更新版	インターメディカル	2017
	Public Health Nursing in Japan		
宮坂忠夫 ^他	健康教育論 第 2 版	メヂカルフレンド社	2013
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017
日本小児科学会 ^他 編	心と体の健診ガイド - 乳児編 - 第 2 版	日本小児医事出版社	2006
日本小児科学会 ^他 編	心と体の健診ガイド - 幼児編 -	日本小児医事出版社	2000
愛知県健康福祉部 ^他	愛知県母子健康診査マニュアル	愛知県小児保健協会	2012
大淵修一	絵を見てできる介護予防	法研	2005
	- 運動・食事・住まいの工夫で自立した高齢期を -		
大淵修一	自分でできる介護予防	厚生出版社	2005
	- 高齢者の介護予防支援ガイドブック -		

＜講義スケジュール＞

1	2019. 1.15	火	15:15～16:25	清水 洋子	健康教育の意義・理論
2	1.15	火	16:35～17:45	清水 洋子	健康教育の方法・実際・倫理的配慮
3	1.18	金	13:55～15:05	坂井理映子	疾病構造の変化と予防医療の実際(特講)
4	1.18	金	15:15～16:25	坂井理映子	生活習慣改善における健康相談・個別保健指導の実際(特講)
5	2. 4	月	9:00～10:10	中田 晴美 _{他*}	健康教育 演習(1)
6	2. 4	月	10:25～11:35		健康教育 演習(2)
7	2. 7	木	9:00～10:10		健康教育 演習(3)
8	2. 7	木	10:25～11:35		健康教育 演習(4)
9	2.12	火	9:00～10:10		健康教育 演習(5)
10	2.12	火	10:25～11:35		健康教育 演習(6)
11	2.14	木	9:00～10:10		健康教育 演習(7)
12	2.14	木	10:25～11:35		健康教育 演習(8)
13	2.18	月	9:00～10:10		健康教育 演習(9)
14	2.18	月	10:25～11:35		健康教育 演習(10)
15	2.22	金	12:30～13:40		健康教育 演習(11) 健康教育ロールプレイ
16	2.22	金	13:55～15:05		健康教育 演習(12) 健康教育ロールプレイ
17	2.22	金	15:15～16:25		健康教育 演習(13) 健康教育ロールプレイ
18	2.22	金	16:35～17:45		健康教育 演習(14) 健康教育ロールプレイ(まとめ含む)

* 中田 晴美、清水 洋子、犬飼かおり、高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子、坂井理映子

〔公衆衛生看護活動展開論〕（保健師選択必修科目）

科目責任者 中田 晴美

科目担当者 中田 晴美、清水 洋子、犬飼かおり、
高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

目的

地域特性を把握するための地域診断の意義・方法論について学んだ上で地域診断を展開し、健康課題の抽出及び施策化、システム化する一連の過程について理解する。

また、対象者（個人・家族・集団・組織）に応じた、人々の健康増進のための支援に必要なアセスメントの方法論および支援技術について、講義及び演習形式で学び、保健師が用いる公衆衛生看護技術の実際を理解する。

到達目標

1. 地域診断の目的と展開方法について説明することができる。
2. 対象となる地域の特性および地域環境を把握し、地域（個人・家族・集団）の健康課題を抽出することができる。
3. 対象となる地域の健康課題解決のための働きかけの方法について立案することができる。
4. 保健師活動を展開する上で必要な基礎的知識・技術・態度について説明することができる。
5. 保健師が用いる公衆衛生看護技術について企画・実施・評価の一連の過程を展開することができる。（健康相談、保健指導、健康診断、家庭訪問、地区組織活動、自主グループ支援）

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 地域診断総論	1. 地域診断とは	1) 地域診断の意義・目的 2) 地域診断に関する理論 3) 地域診断の過程
II. 地域診断の実際	1. 地域診断の一連の過程の展開	1) 対象となる地域の特性および地域環境、住民の健康状況等に関する情報収集 2) 地域（個人・家族・集団）の健康課題の抽出 3) 抽出した健康課題解決のための働きかけの方法の立案
III. 公衆衛生看護活動における方法論	1. 保健師に求められる資質	1) 保健師に求められる姿勢・態度
	2. 健康相談	1) 健康相談の目的・場 2) 健康相談に用いられる理論・技術 3) 健康相談の過程 4) 健康相談の実際 5) 健康相談ロールプレイ
	3. 健康診断	1) 健康診断の目的・場 2) 健康診断に用いられる理論・技術 3) 健康診断の過程 4) 健康診断の実際 5) 健康診断ロールプレイ
	4. 保健指導	1) 保健指導の目的・場 2) 保健指導に用いられる理論・技術 3) 保健指導の過程 4) 保健指導の実際 5) 保健指導ロールプレイ

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	5. 家庭訪問	1) 家庭訪問の目的 2) 家庭訪問に用いられる理論・技術 3) 家庭訪問の過程 4) 家庭訪問の実際 5) 家庭訪問ロールプレイ

評価方法

講義内容に関する試験（30%）、演習内容〔演習への参加態度、発表内容、課題レポートの提出等含む〕（70%）により総合的に判断する。

教科書

上野 昌江 _他	公衆衛生看護学 第2版	中央法規	2016
厚生労働統計協会編	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	2018
井伊久美子 _他	新版保健師業務要覧 2018 年版	日本看護協会出版会	2018

参考図書

日本看護協会監修	新版 保健師業務要覧 第2版	日本看護協会出版会	2008
宮崎美佐子 _他	最新公衆衛生看護学 2017 年版（総論・各論1・各論2）	日本看護協会出版会	2017
	第4版最新保健学講座（全7巻＋別巻）	メヂカルフレンド社	2015
河野あゆみ編集	在宅看護論	メヂカルフレンド社	2016
標 美奈子 _他	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論	医学書院	2015
中村裕美子 _他	標準保健師講座2 地域看護技術	医学書院	2010
松田正己 _他	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動	医学書院	2018
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第4版データ更新版	インターメディカル	2017
Public Health Nursing in Japan			
エリザベス T. アンダーソン,	コミュニティアズパートナー	医学書院	2007
ジュディス・マクファーレイ	地域看護学の理論と実際 第2版 （金川克子・早川和生監訳）		
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017
高野 陽、柳川 洋 _他	改訂7版 母子保健マニュアル	南山堂	2010
愛知県健康福祉部 _他	愛知県母子健康診査マニュアル	愛知県小児保健協会	2012
日本健康教育士養成機構編	新しい健康教育	保健同人社	2011

＜講義スケジュール＞

1	2018.12.11	火	15:15～16:25	中田 晴美	公衆衛生看護活動における方法論
2	12.11	火	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(演習)①
3	12.13	木	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(演習)②
4	12.13	木	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(演習)③
5	2019. 1.11	金	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	健康相談・保健指導実技演習(特定保健指導)①
6	1.11	金	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	健康相談・保健指導実技演習(特定保健指導)②
7	1.11	金	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	健康相談・保健指導実技演習(特定保健指導)③
8	1.21	月	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	健康相談・保健指導実技演習(結核)①
9	1.21	月	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*}	健康相談・保健指導実技演習(結核)②
10	1.29	火	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)(AL)
11	1.29	火	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)(AL)
12	2. 1	金	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)①
13	2. 1	金	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)②
14	2. 1	金	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)③
15	2. 1	金	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(赤ちゃん訪問演習)④
16	2. 5	火	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	乳幼児健診実技演習(乳幼児健診問診・保健指導演習)(AL)
17	2. 7	木	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	乳幼児健診実技演習(乳幼児健診問診・保健指導演習)①
18	2. 7	木	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	乳幼児健診実技演習(乳幼児健診問診・保健指導演習)②
19	2. 7	木	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	乳幼児健診実技演習(乳幼児健診問診・保健指導演習)③
20	2.13	水	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(高齢者)①
21	2.13	水	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(高齢者)②
22	2.14	木	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(精神)①
23	2.14	木	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	家庭訪問の訪問計画・実技演習(精神)②
24	2.19	火	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(演習)④
25	2.19	火	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(演習)⑤
26	2.21	木	12:30～13:40	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(発表会)①
27	2.21	木	13:55～15:05	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(発表会)②
28	2.21	木	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*}	コミュニティヘルスアセスメント(発表会)③

*中田 晴美、清水 洋子、犬飼かおり、高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

〔公衆衛生看護管理論〕（保健師選択必修科目）

科目責任者 清水 洋子

科目担当者 清水 洋子、中田 晴美、犬飼かおり、
高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

目的

公衆衛生看護管理の目的・機能と構成要素、保健福祉計画や事業計画の策定プロセスと評価方法、地域健康危機管理についての基礎を学び、保健師が行う公衆衛生看護管理について理解する。

到達目標

1. 公衆衛生看護管理の目的と機能について説明することができる。
2. 公衆衛生看護管理の構成要素について説明することができる。
3. 保健福祉計画と事業計画の策定プロセスと評価方法について説明することができる。
4. 公衆衛生看護活動の質保証と継続的質改善について説明することができる。
5. 地域健康危機への備えと対応について説明することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 公衆衛生看護管理の特色と概要	1. 公衆衛生看護管理の目的と機能	1) 公衆衛生看護管理の定義、目的 2) 公衆衛生看護活動における管理的機能
	2. 地域ケアの質保証と継続的質改善	1) サービス提供体制の整備 2) 地域における健康課題の優先順位の検討 3) 職員と住民の権利保障
II. 公衆衛生看護管理の構成要素	1. 看護管理機能構造とその特徴	1) 事例管理 2) 地区管理 3) 事業・業務管理 4) 組織運営管理 5) 予算管理 6) 人材育成・人事管理 7) 情報管理
	2. 地域保健管理と医療安全	1) 地域保健における医療安全の取り組み 2) 医療安全の推進に向けた保健師の役割
III. 行政組織における健康危機管理の実際（特講）	1. 健康危機管理に対する行政の組織・機能	1) 健康危機管理に対する行政の組織とその機能 2) 「健康危機の発生の未然防止」「健康危機発生時に備えた準備」「健康危機への対応」「健康危機による被害の回復」のプロセスにおける保健師の役割の実際
	2. 健康危機管理の過程と保健師の役割	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
IV. 保健福祉活動の計画及び策定	1. 保健福祉計画の策定	1) 保健福祉計画の目的・種類 2) 地方自治体の計画決定とプロセス 3) 解決すべき健康課題の特定と優先順位 4) 目標、目的の明確化と計画策定
	2. 保健福祉計画の推進	1) 関係者との連絡調整 2) 事業運営、モニタリング 3) 計画の変更・調整、周知
	3. 保健福祉計画の見直しと評価	1) 計画の達成状況の確認 2) 評価(プロセス評価、アウトカム評価) 3) 経済的評価と次年度への反映
	4. 事業計画の策定	1) 解決すべき問題点の把握と目的・目標の設定 2) 実施計画と評価指標
V. 保健福祉計画策定と施策化プロセスの実際（特講）	1. 保健福祉計画の策定と推進・評価の実際	1) 特別区の保健福祉計画の特徴 2) 特別区の保健福祉計画策定のプロセスと課題
	2. 健康危機管理の体制と実際	特別区の健康危機管理の体制と実際

評価方法

事前学習課題・演習課題の取組状況（30%）、試験結果（70%）により総合的に評価を行う。

教科書

厚生労働統計協会編	国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	2018
井伊久美子 _他	新版 保健師業務要覧 2018 年版	日本看護協会出版会	2018
上野 昌江 _他	公衆衛生看護学 第 2 版	中央法規	2016

参考図書

宮崎美佐子 _他	最新公衆衛生看護学 2017 年版（総論・各論 1・各論 2）	日本看護協会出版会	2017
	第 4 版最新保健学講座（全 7 巻＋別巻）	メヂカルフレンド社	2015
標 美奈子 _他	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論	医学書院	2015
中村裕美子 _他	標準保健師講座 2 地域看護技術	医学書院	2016
松田正己 _他	標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動	医学書院	2018
荒賀直子、後閑容子	公衆衛生看護学. Jp 第 4 版データ更新版	インターメディカル	2017
	Public Health Nursing in Japan		
柳川 洋、中村好一	公衆衛生マニュアル 2017	南山堂	2017

<講義スケジュール>

1	2019. 1.22	火	12:30～13:40	清水 洋子	公衆衛生看護管理の定義・目的・機能
2	1.22	火	13:55～15:05	清水 洋子	公衆衛生看護管理における危機管理の概要
3	1.24	木	16:35～17:45	中田 晴美	公衆衛生看護管理の構成要素
4	1.28	月	16:35～17:45	中田 晴美	保健福祉計画の策定と保健師の役割
5	1.31	木	13:55～15:05	犬飼かおり	事業計画の策定①
6	1.31	木	15:15～16:25	犬飼かおり _{他*}	事業計画の策定②
7	1.31	木	16:35～17:45	犬飼かおり _{他*}	事業計画の策定③
8	2. 8	金	13:55～15:05	小川智詠子	行政組織における地域健康危機管理の体制と実際(特講)
9	2. 8	金	15:15～16:25	小川智詠子	保健福祉計画策定と施策化プロセスの実際①(特講)
10	2. 8	金	16:35～17:45	小川智詠子	保健福祉計画策定と施策化プロセスの実際②(特講)
	2.13	水	10:25～11:35	清水 洋子	試験

* 犬飼かおり、高 紋子、吉澤 裕世、本田 順子

人間性を育む

〔英語Ⅱ〕 A：日常会話

科目責任者 設楽靖子

科目担当者 宮原 葉、杉下智彦

目的

日常生活と看護の現場の両方で役立つ自然な英語表現を、DVD 及び CD 教材を使用し、多くの会話練習を通して実践的に使える英語を身につける。

到達目標

1. 自己紹介ができる。
2. 自分の意見を英語で述べる・表現することができる。
3. お互いの英語を聞き取り、やりとりをすることができる。
4. 病院内、外で簡単なやりとりができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 英会話	1. 日常英会話	教科書および CD・DVD 教材を利用し、自然な英会話ができるよう練習（グループワーク、ペアワークなど）を行う。 さまざまなテーマについて考え、自分の意見を述べるよう練習をする。
	2. 看護英会話	医療の現場に必要な語彙をたくさんの会話練習から学ぶ。実践に結び付くようになるべく、状況などをロールプレイしつつ会話練習を行う（DVD 使用）。

評価方法

出席・課題・実技テスト 50% 筆記テスト 50%

教科書

Yasuko Onjohji & John
Skelton

Everyday English for Nursing on DVD

成美堂

2010

その他随時プリントなどにて紹介

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.18	水	12:30～13:40	宮原 葉	オリエンテーション、授業説明
2	4.18	水	13:55～15:05	宮原 葉	[看護] Unit 1:Greetings
3	4.25	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 2: Giving Explanations
4	4.25	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 6 What happened?
5	5. 9	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 3: Tests (X-ray)
6	5. 9	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 7 I'd love that job
7	5.23	水	12:30～13:40	杉下智彦 ^{他*}	[看護] Lecture by Prof. Sugishita
8	5.23	水	13:55～15:05	**	[IIB] Interactive activities with visiting students
9	5.30	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 4: Invite the patient to talk, and listening
10	5.30	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 7 I'd love that job
11	6. 6	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 5: Nursing Care and Asking Permission
12	6. 6	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 8 What's playing?
13	6.13	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 6: Injection / Vocabulary Test 1
14	6.13	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 8 What's playing?
15	6.20	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 7: Vital Signs / Vocabulary Test 2
16	6.20	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit 9 What are you going to do?
17	6.27	水	12:30～13:40	宮原 葉	[IIB] Speaking Test ① / Presentation preparation
18	6.27	水	13:55～15:05	宮原 葉	[看護] Speaking Test ① / Presentation preparation
19	7. 4	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 8: Rehabilitation and Asking Questions
20	7. 4	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Presentation preparation
21	10.24	水	12:30～13:40	宮原 葉	[IIB] Writing the script
22	10.24	水	13:55～15:05	宮原 葉	[看護] Paper Test ① / Presentation preparation
23	12.12	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit 9: Operation
24	12.12	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Presentation preparation
25	2019. 1. 9	水	12:30～13:40	宮原 葉	[看護] Unit.10: Positioning the Patient and Giving Instructions
26	1. 9	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Presentation preparation
27	1.23	水	12:30～13:40	宮原 葉	[IIB] Paper Test ② / Presentation preparation
28	1.23	水	13:55～15:05	宮原 葉	[IIB] Unit.10 / Presentation preparation
	1.30	水	12:30～13:40	宮原 葉	[IIB] Final Presentation

* 杉下智彦、設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

** 設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

〔英語Ⅱ〕B：講読

科目責任者 設楽靖子

科目担当者 設楽靖子、杉下智彦

目的

このコースでは、リーディングとスピーキングの向上を目指す。

リーディングでは、英語Ⅰ-2での講読に引き続き、主に看護に関連したストーリーを読む。全米ベストセラーシリーズ *Chicken Soup for the Soul* の1冊 *Chicken Soup for the Nurse's Soul* の中から数編のストーリーを選んで扱う。文法と英語表現の基本、医療単語などを復習しながら、ストーリーの流れを素早くつかみ、要約する練習も行なう。他には、ニュース英語も講読の材料とする。

会話は、2年次の授業を引き継ぎ、医療場面を中心とする会話表現を身につけ、実際の使用につなげる。国際交流の機会があれば、積極的に参加する。

到達目標

1. ストーリーの情景、登場人物の気持ちを深く読み取る。
2. 日常会話の様々な場面で役に立つ会話表現が確実に言えるようになる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 英文講読	1. 英文読解	1) ストーリーの流れを素早くつかむ 2) 内容を深く読み取る 3) 文法と英語表現の基本、医療単語の復習
II. 英会話	1. 看護英会話の表現を身につける	1) 医療場面を中心に、様々なトピックについて、英語で表現する練習 2) 国際交流の機会を活用する

評価方法

筆記テスト 50%、実技テスト・提出物 40%、出席 10%

教科書

田中芳文編

『ナースが語る感動のストーリー』

看護の科学社

2012

その他の教材は、適宜配布する。

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.18	水	12:30～13:40	設楽 靖子	オリエンテーション
2	4.18	水	13:55～15:05	設楽 靖子	Reading 導入: Unit 1 Working Christmas Day
3	4.25	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 1 Working Christmas Day
4	4.25	水	13:55～15:05	設楽 靖子	看護英会話DVD (1)、国際交流準備
5	5. 9	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 1 Working Christmas Day
6	5. 9	水	13:55～15:05	設楽 靖子	国際交流準備
7	5.23	水	12:30～13:40	杉下智彦 ^{他*}	Lecture by Prof.Sugishita
8	5.23	水	13:55～15:05	**	Interactive activities with visiting students
9	5.30	水	12:30～13:40	設楽 靖子	交流授業の復習
10	5.30	水	13:55～15:05	設楽 靖子	Unit 3 Boarder Baby
11	6. 6	水	12:30～13:40	設楽 靖子	ニュース英語(1)
12	6. 6	水	13:55～15:05	設楽 靖子	Unit 3 Boarder Baby
13	6.13	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 3 Boarder Baby
14	6.13	水	13:55～15:05	設楽 靖子	Unit 7 Stormy Delivery
15	6.20	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 7 Stormy Delivery
16	6.20	水	13:55～15:05	設楽 靖子	看護英会話DVD(2)
17	6.27	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 7 Stormy Delivery
18	6.27	水	13:55～15:05	設楽 靖子	看護英会話DVD(3)
19	7. 4	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 7 Stormy Delivery
20	7. 4	水	13:55～15:05	設楽 靖子	ニュース英語(2)
21	10.24	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 7 Stormy Delivery
22	10.24	水	13:55～15:05	設楽 靖子	看護英会話DVD(4)
23	12.12	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 13 A Piece of Paper
24	12.12	水	13:55～15:05	設楽 靖子	ニュース英語(3)
25	2019. 1. 9	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 13 A Piece of Paper
26	1. 9	水	13:55～15:05	設楽 靖子	ニュース英語(4)
27	1.23	水	12:30～13:40	設楽 靖子	Unit 13 A Piece of Paper
28	1.23	水	13:55～15:05	設楽 靖子	復習
	1.30	水	12:30～13:40	設楽 靖子	試験

* 杉下智彦、設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

** 設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

〔英語Ⅱ〕 C：医学英会話

科目責任者 設楽靖子
 科目担当者 橋本ナターシャ、
 杉下智彦

目的

臨床看護英語の知識の習得、及び、医療現場における患者や医師との会話習得

到達目標

1. 英語による授業を理解し、英語で質問できる。
2. 臨床看護の基本英単語を聞いて理解し、会話の中でも使用することができる。
3. 医療現場における基本的な会話を理解し、応答ができる。
4. 医療関係者が直面するいくつかの問題を取り上げ、議論することができる。
5. 読解力を維持・向上させる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. Study medical terminology and health care issues	1. Introduction to basic English medical vocabulary.	1) Learn basic, common daily medical names of hospital personnel, patient symptoms, and medication.
	2. Improve students' understanding of medical terminology and medical issues.	2) Learn vocabulary related to sections, areas, and instruments (used by doctors, nurses, etc.). 3) Introduce vocabulary used to describe different medical situations (e.g. patient symptoms).
	3. Continue to develop students' reading and discussion skills.	4) Pair and group discussions about various medical topics, based on the reading passages.
II. Communication practice in English	4. Communication practice in English.	Role playing of daily medical conversations in English, discussing health care issues and treatment options.

評価方法

Quizzes (grammar, vocabulary, reading, listening) 50% Active class participation 30%
 Speeches/Presentations/Role Plays 20%

教科書

Tony Grice *Oxford English for Careers Nursing 1* Oxford University Press
 その他、必要に応じてプリントを配布する

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.18	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Orientation and Unit 1 The hospital team
2	4.18	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 1 The hospital team
3	4.25	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 2 In and around the hospital
4	4.25	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 2 In and around the hospital
5	5. 9	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 3 Hospital admissions
6	5. 9	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 3 Hospital admissions
7	5.23	水	12:30～13:40	杉下智彦 ^{他*}	Lecture by Prof. Sugishita
8	5.23	水	13:55～15:05	**	Interactive activities with visiting students
9	5.30	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 4 Accidents and emergencies
10	5.30	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 4 Accidents and emergencies
11	6. 6	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 5 Pain
12	6. 6	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 5 Pain
13	6.13	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 6 Symptoms
14	6.13	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 6 Symptoms
15	6.20	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 7 Caring for the elderly
16	6.20	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 7 Caring for the elderly
17	6.27	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 9 Blood
18	6.27	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 9 Blood
19	7. 4	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 10 Death and dying
20	7. 4	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 10 Death and dying
21	10.24	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 11 Hygiene
22	10.24	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 11 Hygiene
23	12.12	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 12 Mental health nursing
24	12.12	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 12 Mental health nursing
25	2019. 1. 9	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 13 Monitoring the patient
26	1. 9	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 13 Monitoring the patient
27	1.23	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Unit 14 Medication
28	1.23	水	13:55～15:05	橋本ナターシャ	Unit 14 Medication
	1.30	水	12:30～13:40	橋本ナターシャ	Review and final assessment, as needed

* 杉下智彦、設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

** 設楽靖子、宮原葉、橋本ナターシャ

〔中国語〕（選択科目）

科目責任者 劉 秋佳

目的

中国語を初めて学ぶ、入門の授業。読む、書く、聞く、話すことができるため、中国語の基礎を学ぶ。特に聞くことと話すことに重点を置き、初級レベルの中国語コミュニケーション能力を身につけることが基本目的である。

または、中国文化と社会事情の賞関連資料の配布、中国の映画、漫画、映像、写真の鑑賞、気功体験、料理作りなどを通じて中国文化と社会事情の理解を深めることも目指す。

到達目標

1. 中国語の発音をマスターし、基本的な文法を理解する。
2. 簡単な日常会話を聞き取れるようにする。
3. 簡単な日常会話を話せるようにする。
4. 基本的な中国語を読めるようにする。
5. 基本的な中国語を書けるようにする。
6. 現代中国の文化や社会の一端を理解する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 基礎の固め	発音と基礎文法を習得する	1) 四声とピンインを正確に読める 2) 日常よく用いる単語を覚える
II. 応用力の養成	初級的なコミュニケーションの能力を身につける	3) 文の構成、基本文型を把握する 4) 基本文と否定文や疑問文の読み書き 5) 挨拶の表現ができる 6) 人についての表現ができる
III. 中国への理解	中国文化と社会を知ろう	7) 日常生活についての表現ができる 8) 自己紹介を話せる 9) 簡単な中国語の文を書ける 10) 中国文化と社会事情を知る

評価方法

授業内評価：授業内の会話練習30%、課題レポート10%、小テスト60%、学習の姿勢を総合評価する。

教科書

プリントの配布と教科書を併用する。教科書は授業時に指示する。

参考図書

中日・日中辞書（具体的には授業時指示する）

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.19	木	9:00～10:10	劉 秋佳	導入	中国語の特徴と学習方法
2	4.19	木	10:25～11:35	劉 秋佳	発音1	四声、単母音、複母音、挨拶語
3	4.26	木	9:00～10:10	劉 秋佳	発音2	子音、鼻母音、挨拶語、数字、曜日
4	4.26	木	10:25～11:35	劉 秋佳	発音3	複母音、鼻母音、姓名と西暦の言い方
5	5.10	木	9:00～10:10	劉 秋佳	発音4	半母音、特殊発音、変調、是の述語文
6	5.10	木	10:25～11:35	劉 秋佳	発音5総合練習	発音の総合練習と発音小テスト
7	5.17	木	9:00～10:10	劉 秋佳	課文1	初対面の挨拶とお名前の尋ねについて
8	5.17	木	10:25～11:35	劉 秋佳	課文2	学年、年齢、国籍についての表現
9	5.24	木	9:00～10:10	劉 秋佳	課文3	学校について
10	5.24	木	10:25～11:35	劉 秋佳	課文4	家と家族について
11	5.31	木	9:00～10:10	劉 秋佳	課文5	時間と日付について
12	5.31	木	10:25～11:35	劉 秋佳	課文6	一日の行動について
13	6.14	木	9:00～10:10	劉 秋佳	復習練習	要点のまとめと総合練習
14	6.14	木	10:25～11:35	劉 秋佳	テスト	前期学習要点の確認
15	6.21	木	9:00～10:10	劉 秋佳	言語と文化1	中国人の暮らしと習慣
16	6.21	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化1	中国人の暮らしと習慣
17	6.28	木	9:00～10:10	劉 秋佳	言語と文化2	伝統医学について
18	6.28	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化2	伝統医学について
19	7. 5	木	9:00～10:10	劉 秋佳	言語と文化3	中国養生法1--ツボ体操
20	7. 5	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化4	孫子兵法と三国志
21	7.12	木	9:00～10:10	劉 秋佳	中国社会事情	最新映像から見る中国
22	7.12	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化3	中国養生法2--気功
23	12.13	木	9:00～10:10	劉 秋佳	言語と文化5	水餃子作り
24	12.13	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化5	水餃子作り
25	2019. 1.17	木	9:00～10:10	劉 秋佳	言語と文化6	中国古代哲学思想--陰陽五行
26	1.17	木	10:25～11:35	劉 秋佳	言語と文化6	中国古代哲学思想--諸子百家
27	1.24	木	9:00～10:10	劉 秋佳	中国社会事情	中国の発展と変化について最新情報
28	1.24	木	10:25～11:35	劉 秋佳	中国社会事情	口頭発表

各専門領域への発展

〔研究方法論〕

科目責任者 中田 晴美

科目担当者 中田 晴美、坂井 志麻、青木 雅子、
櫻田 章子、峯川美弥子、那須実千代、
五十嵐菊美

目的

看護を科学的に探究するための研究の視点、研究プロセスおよび基本的な研究手法を学習する。

看護研究の論文をクリティークする視点を学習する。

研究を行ううえでの倫理について学習し、人間の尊厳を前提とした研究のあり方を理解できる。

到達目標

1. 看護研究の目的と意義を説明できる
2. 看護研究プロセスの概要（量的/質的研究/事例研究／トライアングレーション（triangulation）のデザインの特徴、研究計画立案の基本、データ収集方法、データ分析の考え方の基本と限界、結果の示し方と考察の視点、研究の発表）について説明できる。
3. 文献検索の目的と方法および研究論文のクリティークの視点を理解し、クリティークの視点を説明できる。
4. 研究を行う際に配慮すべき倫理について理解し、必要な倫理的事項を説明できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 概論	1. 研究とは	1) 研究の定義・看護研究の目的・意義 2) 研究における倫理と倫理的配慮
	2. 研究プロセス	1) 課題の選定・研究計画とは 2) 概念枠組み 3) 研究方法（研究デザイン、対象、方法） 4) データの収集と分析 5) 結果と考察 6) 研究の発表
II. 文献検索	1. 文献の活用	1) 文献とは何か 2) 文献の種類 3) 研究の各段階における文献の活用 4) 論文のクリティークの視点
	2. 文献検索法演習	1) コンピュータ利用による和文文献検索の実際 2) 二次資料の検索の実際 3) 文献カードの作成
III. 量的研究	1. 量的研究の概観	1) 量的研究とは 2) 概念枠組みと研究デザイン
	2. 量的研究の方法論	1) 量的データ収集方法 2) 量的データ分析方法 3) 結果と考察の示し方 4) 量的研究論文の評価

研究方法論

大 項 目	中 項 目	小 項 目
IV.質的研究	1. 質的研究の概観	1) 質的研究とは 2) 質的研究デザイン
	2. 質的研究の方法論	1) データ収集とデータ分析の方法 2) 質的研究のまとめかた 3) 質的研究の質の確保と評価
V. 事例研究 (ケーススタディ)	1. 事例研究 (ケーススタディ)の概観	1) 事例研究 (ケーススタディ) とは 2) 事例研究 (ケーススタディ) のデータ収集 3) 事例研究 (ケーススタディ) のデータ分析と解釈

評価方法

課題レポート (80%)、演習への参加態度 (20%) により総合的に評価を行う。

教科書

南裕子 編 看護における研究 第2版 日本看護協会出版会 2017

参考図書

秋ゆたか	サクサク看護研究	中山書店	2006
APA(アメリカ心理学会)	APA 論文作成マニュアル 第2版	医学書院	2011
近藤潤子監訳	看護研究—原理と方法第2版	医学書院	2010
萱間 真美	質的研究実践ノート	医学書院	2007
黒田裕子	黒田裕子の看護研究 step by step 第4版	医学書院	2012
木原雅子	医学的研究のデザイン 第4版	メディカル・サイエンス・ インターナショナル	2014
小山真理子 監訳	実践に活かす看護研究	中山書店	2008
大木 秀一	量的な看護研究のきほん	医歯薬出版	2011
高木廣文、林 邦彦	エビデンスのための看護研究の読み方、 進め方	中山書店	2006
松木光子、小笠原知枝	これからの看護研究 第3版	ヌーヴェルヒロカワ	2012
佐藤淑子、和田佳代子編	看護師のための Web 検索・文献検索入門	(JJN スペシャル No. 95) 医学書院	2013

＜講義スケジュール＞

1	2018. 5. 7	月	15:15～16:25	中田 晴美	研究の定義、目的・意義・研究における倫理と倫理的配慮
2	5. 9	水	15:15～16:25	中田 晴美	研究プロセス
3	5.14	月	16:35～17:45	中田・五十嵐	文献検討
4*	5.25	金	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*1}	文献検索演習(1) } 1グループ
5*	5.25	金	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*1}	
4*	5.31	木	15:15～16:25	中田 晴美 _{他*2}	文献検索演習(1) } 2グループ
5*	5.31	木	16:35～17:45	中田 晴美 _{他*2}	
6	6. 4	月	12:30～13:40	中田 晴美	文献カードの作成 (AL)
7	6. 6	水	15:15～16:25	坂井 志麻	事例研究 (ケーススタディ)
8	6. 7	木	15:15～16:25	坂井 志麻	事例研究 (ケーススタディ) 文献のクリティック (AL)
9	6.11	月	16:35～17:45	坂井 志麻	量的研究方法論 概念枠組みと研究デザイン
10	6.14	木	12:30～13:40	坂井 志麻	量的研究方法論 データ収集と分析
11	6.14	木	13:55～15:05	坂井 志麻	量的研究方法論 結果のまとめ方
12	6.15	金	16:35～17:45	坂井 志麻	量的研究文献のクリティック (AL)
13	6.20	水	15:15～16:25	青木 雅子	質的研究概観
14	6.20	水	16:35～17:45	青木 雅子	質的研究方法論 データ収集と分析
15	6.22	金	12:30～13:40	青木 雅子	質的研究方法論 結果のまとめ方
16	6.22	金	13:55～15:05	青木 雅子	質的研究文献のクリティック (AL)
17	6.27	水	15:15～16:25	中田・坂井・青木	グループワークによる文献のクリティック
18	6.27	水	16:35～17:45	中田・坂井・青木	文献のクリティック内容についてのプレゼンテーション

*1 中田 晴美、櫻田 章子、那須実千代

*2 中田 晴美、櫻田 章子、峯川美弥子

〔キャリア発達論Ⅲ〕

科目責任者 吉武久美子

科目担当者 吉武久美子、池田 真理、草柳かほる、
多久和善子、山口 紀子、守屋 治代、
小宮山陽子、徳田 由希、白石 和子、
金子恵美子

科目の目的

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

3年次の目的

専門分野の学習や基礎実習・成人看護学実習Ⅰを通して、学士課程終了後の自己のキャリアをイメージし、将来的な展望を視野に入れつつ学習の指標を定め実行する。各領域の実習に臨むにあたり必要な看護管理学の理論を学び、看護の専門性と機能・チーム医療の担い手としての態度を養う。

到達目標

1. 看護師のキャリアの可能性と展望について理解し、自身の意見を述べることができる。
2. 先輩看護職や先人のキャリアを知ること、自身のキャリアの方向性について述べるができる。
3. 看護学部 1, 2 年生との交流のための企画・実行を通して、リーダーシップ・フォロワーシップについて考え、自分の意見を述べるができる。
4. 看護学各論実習の実習施設である女子医大病院の概要、看護の理念、ケア提供システム等を理解し、述べるができる。
5. 看護学各論実習に臨むにあたり、看護管理論の知見を理解し、実習において活用することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 看護職の生涯発達	1. 卒業後のキャリアのイメージ 2. 先人のキャリアから学ぶ	1) キャリアの可能性と展望 1) 吉岡弥生記念講演会への出席 2) 先輩から学ぶ看護職のキャリア
II. 協働の基礎	1. 学部下級生との交流	1) NHR の企画 2) NHR への参加 3) 評価と次年度への引き継ぎ
III. 看護管理	1. 病院組織と看護職	1) 看護管理学概論 2) 病院組織と看護部門の役割 3) 看護組織・ユニットの管理運営 4) 看護サービスの提供システム/経済的評価 5) 医療安全管理と看護職 6) 臨地実習を通して考える看護管理

評価方法

出席状況 20%、レポート 80%

ただし、イベントについての準備・企画等について授業外での活動を行う役割を担えば加点する

教科書

上泉和子^他 系統看護学講座 統合分野 医学書院 2018
看護の統合と実際[1]看護管理 第 10 版

柳田邦夫、陣田泰子、その先の看護を変える気づき 医学書院 2011
佐藤紀子 編 一学び続けるナースたち

参考図書

その都度紹介

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.12	木	9:00～10:10	吉武久美子 ^{他*1}	ガイダンス
2	4.12	木	10:25～11:35	吉武久美子 ^{他*1}	NHRの企画
3	5.22	火	12:30～13:40	草柳かほる ^{他*2}	NHRの企画
4	5.22	火	13:55～15:05	多久和善子／山口紀子	吉岡弥生記念講演
5	5.22	火	15:15～16:25	多久和善子／山口紀子	吉岡弥生記念講演
6	6. 8	金	12:30～13:40	草柳かほる ^{他*3}	NHRへの参加
7	6. 8	金	13:55～15:05	草柳かほる ^{他*3}	NHRへの参加
8	6. 8	金	15:15～16:25	草柳かほる ^{他*3}	NHRへの参加
9	6.15	金	9:00～10:10	池田 真理	看護管理：看護管理学概論
10	6.18	月	9:00～10:10	池田 真理	看護管理：病院組織と看護部門の役割
11	6.29	金	16:35～17:45	池田 真理	看護管理：看護組織・ユニットの管理運営
12	7. 2	月	15:15～16:25	池田 真理	看護管理：看護サービスの提供システム／経済的評価
13	7. 5	木	15:15～16:25	金子恵美子	看護管理：医療安全管理と看護職
14	7.12	木	12:30～13:40	白石 和子	看護管理：看護管理者の行う看護管理
15	10.23	火	12:30～13:40	山口 紀子 ^{他*1}	先輩から学ぶキャリア
16	10.23	火	13:55～15:05	山口 紀子 ^{他*1}	先輩から学ぶキャリア
17	10.23	火	15:15～16:25	山口 紀子 ^{他*1}	先輩から学ぶキャリア
18	10.24	水	10:25～11:35	吉武久美子	キャリアの可能性と展望

*1 吉武久美子、草柳かほる、多久和善子、山口 紀子

*2 草柳かほる、多久和善子、山口 紀子

*3 草柳かほる、吉武久美子、池田 真理、多久和善子、山口 紀子、守屋 治代、小宮山陽子、徳田 由希

〔国際看護コミュニケーションⅠ〕（選択科目）：ハワイ・パシフィック大学

科目責任者：設楽 靖子

科目担当者：設楽 靖子

【目的】

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

【到達目標】

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学（HPU）での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ．スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
Ⅱ．リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法：日本での事前学習 40%、ハワイでの授業・研修の状況 50%、報告書提出 10%

教科書：

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料：

必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	2018年6月			設楽 靖子	オリエンテーション
2	8. 1	水	10:25～11:35	設楽 靖子	自己紹介の準備
3	8. 1	水	12:30～13:40	設楽 靖子	旅行社オリエンテーション(情報実習室)、ESTA登録
4	8. 2	木	9:00～10:10	設楽 靖子	旅行英会話(1)
5	8. 2	木	10:25～11:35	設楽 靖子	インタビューの準備、看護英語の復習(1)
6	8. 3	金	10:25～11:35	設楽 靖子	ハワイの地理・歴史について学ぶ
7	8. 3	金	12:30～13:40	設楽 靖子	旅行英会話(2)
8	8. 6	月	10:25～11:35	設楽 靖子	訪問先の機関について調べる
9	8. 7	火	9:00～10:10	設楽 靖子	自己紹介とインタビューの練習
10	8. 7	火	10:25～11:35	設楽 靖子	ハワイの日系移民等について学ぶ
11	8. 8	水	9:00～10:10	設楽 靖子	看護英語の復習(2)
12	8. 8	水	10:25～11:35	設楽 靖子	現地授業への準備
13	8.13	月			出発(成田発)
14					ハワイ・パシフィック大学にて授業 英語によるグループ・プレゼンテーション クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26	8.21	火			帰国(成田着)
27	9月				帰国報告準備
28	9月				帰国報告

〔国際看護コミュニケーションⅡ〕（選択科目）：梨花女子大学

科目責任者 設楽靖子

科目担当者 設楽靖子

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校である梨花女子大学（韓国）の授業や看護実習に参加し、看護の学びを深めながら国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し、使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢・文化について、英語で話せる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. 梨花女子大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
II. 国際人としての視野を広げる	1. 梨花女子大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) 梨花女子大学の学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：日本での事前授業 60%、梨花女子大学における参加態度 40%

教科書

なし

参考資料

Ewha Archives, *The Story of Ewha: From History to Future*. Ewha Womans University Press.
-----, *A Historical Guide to Ewha Campus*. Pamphlet. 2013.

Beth Perry Black, *Professional Nursing: Concepts and Challenges*. 8th ed. St. Louis: Elsevier, 2017.

必要に応じて、プリント配布

＜講義スケジュール＞

1	2018年 7月			設楽 靖子	オリエンテーション(梨花女子大の学生と交流)
2	11月			設楽 靖子	研修準備の開始
3	2019. 2.13	水	15:15～16:25	設楽 靖子	自己紹介の準備
4	2.13	水	16:35～17:45	設楽 靖子	梨花女子大について調べる
5	2.14	木	15:15～16:25	設楽 靖子	Presentationの準備
6	2.14	木	16:35～17:45	設楽 靖子	韓国の歴史・文化・社会について学ぶ
7	2.19	火	15:15～16:25	設楽 靖子	Medical Terms復習
8	2.19	火	16:35～17:45	設楽 靖子	Presentationの準備
9	2.20	水	16:35～17:45	設楽 靖子	インタビューの準備
10	2.21	木	9:00～10:10	設楽 靖子	授業参加の準備(Adult Health)
11	2.21	木	10:25～11:35	設楽 靖子	Presentationの準備
12	3. 7	木	10:25～11:35	設楽 靖子	自己紹介とインタビューの練習
13	3. 7	木	12:30～13:40	設楽 靖子	Presentationの仕上げ
14	3. 9	土			出発
15					梨花女子大学にて授業
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28	3.16	土			帰国

〔国際看護コミュニケーション III〕 (選択科目) : アルバーノ大学

科目責任者: 設楽 靖子

科目担当者: 設楽 靖子

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し、使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢・文化について、英語で話せる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
II. 国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ大学や現地留学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法: 日本での事前研修態度 (課題の予習、プレゼンテーション準備) 70%

アルバーノ大学の教員による評価 30%

教科書:

必要に応じて、プリント配布

参考資料:

John S. Lander

English for Health and Medicine

Asahi Press 2006

Noboru Matsuoka, et al.

Presentations to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career

Cengage 2014

<講義スケジュール>

1	2018年6月			設楽靖子	書類作成(1)
2	6月			設楽靖子	書類作成(2)
3	8. 1	水	12:30～13:40	設楽靖子	旅行社オリエンテーション、ESTAの手続き等
4	8. 1	水	13:55～15:05	設楽靖子	看護英語の復習
5	8. 1	水	15:15～16:25	設楽靖子	Presentation準備
6	8. 2	木	12:30～13:40	設楽靖子	看護英語の復習
7	8. 2	木	13:55～15:05	設楽靖子	Presentation準備
8	8. 2	木	15:15～16:25	設楽靖子	Presentation準備
9	8. 3	金	13:55～15:05	設楽靖子	看護英語の復習
10	8. 3	金	15:15～16:25	設楽靖子	スピーチ準備
11	8. 6	月	12:30～13:40	設楽靖子	Presentation準備
12	8. 6	月	13:55～15:05	設楽靖子	看護英語の復習
13	8. 6	月	15:15～16:25	設楽靖子	スピーチ練習、Presentation準備
14	8. 7	火	12:30～13:40	設楽靖子	授業準備
15	8. 7	火	13:55～15:05	設楽靖子	Presentationリハーサル
16	8. 7	火	15:15～16:25	設楽靖子	Presentationリハーサル
17	8. 8	水	12:30～13:40	設楽靖子	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
18	8. 8	水	13:55～15:05	設楽靖子	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
19	8.23	木			出発
20					 アルバーノ大学にて授業および実習
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27	9. 8	土			帰国
28	9月			設楽靖子	帰国報告

統合実習・卒業論文
(4 年次科目)

〔統合実習Ⅰ・統合実習Ⅱ・卒業論文〕（４年次科目）

統合実習Ⅰ・統合実習Ⅱ

科目責任者 長江 弘子

科目担当者 池田 真理、小川久貴子、笹原 朋代、清水 洋子、田中美恵子、長江 弘子、日沼 千尋、守屋 治代、吉武久美子、青木 雅子、菊池 昭江、見城 道子、小泉 雅子、坂井 志麻、三條真紀子、土江田奈留美、中田 晴美、嵐 弘美、飯塚 幸恵、犬飼かおり、奥野 順子、加藤 京里、草柳かほる、小山 達也、竹内 道子、抜田 博子、原 美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、飯塚あつ子、異儀田はづき、岩崎 孝子、川原 美紀、高 紋子、小林 礼実、小宮山陽子、櫻田 章子、河合 育世、鈴木香緒理、多久和善子、田幡 純子、徳田 由希、那須実千代、藤方小弥香、本田 順子、峯川美弥子、村田知佐恵、山口 紀子、吉澤 裕世

卒業論文

科目責任者 長江 弘子

科目担当者 池田 真理、小川久貴子、尾崎 恭子、笹原 朋代、清水 洋子、田中美恵子、長江 弘子、日沼 千尋、松永 幸子、守屋 治代、吉武久美子、青木 雅子、菊池 昭江、見城 道子、小泉 雅子、神山 暢夫、坂井 志麻、榊 建二郎、三條真紀子、諏訪 茂樹、土江田奈留美、中田 晴美、南家 由紀、嵐 弘美、飯塚 幸恵、犬飼かおり、奥野 順子、加藤 京里、草柳かほる、小山 達也、設楽 靖子、竹内 道子、抜田 博子、原 美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、飯塚あつ子、異儀田はづき、岩崎 孝子、川原 美紀、高 紋子、小林 礼実、小宮山陽子、櫻田 章子、河合 育世、鈴木香緒理、多久和善子、田幡 純子、徳田 由希、那須実千代、藤方小弥香、本田 順子、峯川美弥子、村田知佐恵、山口 紀子、吉澤 裕世

統合実習Ⅰ目的

選択した看護専門領域において、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に実践するために必要な知識と技術の統合を図る。この学習を通して、自己の課題を明確化し、統合実習Ⅱに取り組む姿勢を高める。

統合実習Ⅱ目的

４年間で学習した知識と技術を統合し、自ら選択した看護専門領域において、臨床実践を中心に学習し、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に展開して、看護の実践力を高める。

卒業論文目的

各自のこれまでの看護学の学びの中で究明すべき課題を見出し、その課題に関連深い専門分野をもつ教員の指導のもとに、課題の探究に取り組む。その成果を報告するまでのプロセスを通して、生涯にわたり継続して看護の専門性を高めていくための各自の展望を一層深く意識する機会とする。

〔統合実習・卒業論文日程〕

2019年1月8日（火） 6限 統合実習・卒業論文オリエンテーション
 2月19日（火） 1限 卒業論文領域別オリエンテーション
 2限 統合実習領域別オリエンテーション

養護教諭一種免許課程

〔学校保健〕

科目責任者 黒田 薫

目的

学校教育における学校保健の意義としくみ、養護教諭としての仕事の進め方の実際について学ぶ。

到達目標

1. 学校保健活動の意義、課題について理解できる。
2. 子どもの健康問題とその対応について説明できる。
3. 養護教諭の具体的な実践を学び、学校保健活動の進め方について理解できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 子どもの健康実態と課題	1. 子どもの健康実態 2. 子どもの心とからだ	1) からだのおかしさの実感 2) 各種保健統計より 1) 子どもの発育発達 2) 心の問題 3) 子どもの健康実態から見る健康課題
II. 学校保健の概念	1. 養護教諭の役割 2. 学校保健のしくみ	1) 養護教諭の歴史に学ぶ 2) 養護教諭に求められるもの 1) 学校教育における学校保健の意義と目的 2) 学校保健の特性 3) 学校保健の運営と関わる人々
III. 学校における保健室の役割	1. 保健室の機能と役割 2. 保健室・養護教諭とは	1) 保健室の日常 2) からだにこだわる養護教諭 3) 保健室の機能と役割 1) 教育実践者としての養護教諭 2) 相談活動
IV. 救急処置	1. 救急処置 2. 健康障害と指導	1) 子どもの傷病の実際 2) 校内救急体制と安全教育 1) 感染症予防 2) 疾病を持つ子どもへの対応
V. 健康診断	1. 健康診断の意義 2. 健康診断計画	1) 健康診断の目的 2) 健康診断の項目 1) 教育としての健康診断 2) 健康診断の結果を生かす
VI. 保健教育	1. 保健教育の意義と実践 2. 保健指導	1) 保健授業づくり 2) 養護教諭と保健教育 1) 保健の授業と養護教諭 2) 保健指導

学校保健

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅶ. 組織活動	1. 学校保健組織活動	1) 校内組織と学校保健 2) 学校保健委員会 3) 家庭・関係機関との連携 4) 特別支援教育
	2. これからの学校保健	1) 学校保健の役割

評価方法

授業への意欲的参加 10%、レポート 30%、試験 60%

教科書

教育科学研究会・藤田和也 編	保健室と養護教諭	国土社	2008
教育養成系大学保健協議会 編	学校保健ハンドブック 第6次改訂	ぎょうせい	2014

参考図書

大谷尚子、森田光子編	養護教諭の行う健康相談 新版	東山書房	2016
大谷尚子他編著	新養護学概論	東山書房	2009
芽の会編	ひろがれ保健室のしごと	芽の会	2006
田中なつみ 著	いのちまるごと子どもたちは訴える	高文研	2003
穴戸洲美 編著	養護教諭の役割と教育実践	学事出版	2000
全国養護教諭サークル協議会 編	雑誌「保健室」(隔月刊)	本の泉社	
学校健康教育法令研究会 監修	学校保健・学校安全法令必携 第7次改訂	ぎょうせい	2012
森昭三、和唐正勝編著	新版 保健の授業づくり入門	大修館書店	2002

＜講義スケジュール＞

1	2018.12.11	火	12:30～13:40	黒田 薫	子どもの心とからだ
2	12.11	火	13:55～15:05	黒田 薫	保健室でとらえた子どもの健康実態
3	12.15	土	9:00～10:10	黒田 薫	養護教諭の役割～歴史から学ぶ～
4	12.15	土	10:25～11:35	黒田 薫	学校保健の意義、しくみ
5	2019. 1. 8	火	12:30～13:40	黒田 薫	保健室の機能と役割 I
6	1. 8	火	13:55～15:05	黒田 薫	保健室の機能と役割 II
7	1.15	火	12:30～13:40	黒田 薫	保健室の機能と役割 III
8	1.15	火	13:55～15:05	黒田 薫	保健室で行う救急処置
9	1.19	土	9:00～10:10	黒田 薫	健康障害と指導 I
10	1.19	土	10:25～11:35	黒田 薫	健康障害と指導 II
11	1.22	火	12:30～13:40	黒田 薫	健康診断の意義と目的
12	1.22	火	13:55～15:05	黒田 薫	教育としての健康診断 I
13	1.29	火	12:30～13:40	黒田 薫	教育としての健康診断 II
14	1.29	火	13:55～15:05	黒田 薫	養護教諭と保健教育
15	2. 2	土	9:00～10:10	黒田 薫	保健指導 I
16	2. 2	土	10:25～11:35	黒田 薫	保健指導 II
17	2. 5	火	12:30～13:40	黒田 薫	保健指導 III
18	2. 5	火	13:55～15:05	黒田 薫	保健指導 IV
19	2.12	火	12:30～13:40	黒田 薫	学校保健組織活動
20	2.12	火	13:55～15:05	黒田 薫	これからの学校保健
	2.16	土	9:00～10:10	黒田 薫	試験

〔養護概説〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、奥野 順子

目的

現代の学校教育における学校保健の重要性を踏まえ、養護の概念や養護教諭制度の沿革、学校における養護教諭の役割や活動など、養護全般を理解する。また、養護教諭の職務に関する基礎・基本的な内容を理解し、学校全体の保健計画を考える。

到達目標

1. 教育における養護の概念と養護教諭の役割を説明することができる。
2. 養護教諭の職務内容について説明することができる。
3. 学校保健計画を考案することができる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅰ．養護の概念と養護教諭	1. 養護とは	1) 「養護」の用語的解釈
	2. 養護の機能	2) 養護の本質と概念
	3. 養護教諭制度の沿革	1) 学校教育における養護の機能
	4. 養護教諭の職務に関する法的位置づけ	2) 養護の対象と範囲
	5. 養護教諭の職務と求められる資質能力	1) 養護教諭制度の沿革
	6. 学校教育と養護教諭	2) 児童・生徒の健康問題と養護教諭の位置づけの変遷
Ⅱ．養護教諭の職務	1. 健康診断	1) 学校教育法における養護教諭
		2) 教科の担当
		3) 保健主事
		4) 養護教諭の役割
	2. 健康観察	2) 養護教諭の職務内容
		3) 養護教諭に必要な基本的資質
		4) 養護教諭に必要な職業倫理
		1) 養護教諭養成課程カリキュラム
	3. 健康相談	2) 養護教諭養成課程における現状と課題
		1) 健康診断の法的根拠
		2) 定期の健康診断
		3) 臨時の健康診断
		4) 就学時健康診断
		1) 健康観察の重要性
		2) 健康観察の目的
		3) 健康観察の法的根拠
		4) 健康観察の機会
		5) 健康観察の視点
		6) 学校生活全般における健康観察
		1) 健康相談の法的位置づけの変遷
		2) 学校における健康相談の基本的な考え方
		3) 健康相談における養護教諭、学級担任等、学校医等の役割
		4) 健康相談の進め方

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. 学校保健計画	4. 保健教育	5) 校内組織体制づくり
		6) 健康相談実施上の留意点
	5. 保健指導	7) 関係機関等との連携上の留意点
		1) 保健教育の目指すもの
	6. 保健室の役割と経営	2) 学校教育における保健教育の位置づけ
		3) 保健教育の領域と特質
	7. 保健組織活動	4) 保健教育の構造
		1) 特別活動
	8. 養護活動の評価	2) 個別指導
		1) 保健室の設置
	1. 保健調査と健康課題	2) 保健室の機能
		3) 保健室経営
	2. 学校保健計画	1) 組織活動の必要性
		2) 学校保健組織
		3) 学校保健委員会
		4) 学校保健と地域の連携
		1) 活動評価の目的と意義
		2) 評価の視点
		3) 評価方法

評価方法

試験 40%、課題およびプレゼンテーション 60%の割合で評価する

教科書

采女智津江 編	新養護概説第 9 版	少年写真新聞社	2016
大谷尚子 中桐佐智子編著	改訂養護実習ハンドブック	東山書房	2015

参考図書

三木とみ子 編	四訂養護概説	ぎょうせい	2009
森 昭三	変革期の養護教諭	大修館書店	2002

<講義スケジュール>

1	2018.12.13	木	15:15～16:25	日沼 千尋	ガイダンス
2	12.13	木	16:35～17:45	日沼 千尋	養護の概念
3	2019. 1. 9	水	15:15～16:25	日沼 千尋	養護教諭と職務、役割
4	1. 9	水	16:35～17:45	日沼 千尋	健康診断と健康観察、健康相談 1(AL)
5	1.21	月	15:15～16:25	日沼 千尋	健康診断と健康観察、健康相談 2
6	1.21	月	16:35～17:45	日沼 千尋	健康診断と健康観察、健康相談 3
7	1.22	火	15:15～16:25	日沼 千尋	保健教育と保健指導
8	1.22	火	16:35～17:45	奥野 順子	保健室の役割と保健組織活動
9	1.29	火	15:15～16:25	奥野 順子	保健調査と健康課題 1(AL)
10	1.29	火	16:35～17:45	奥野 順子	保健調査と健康課題 2
11	1.31	木	13:55～15:05	日沼 千尋	養護活動の評価
12	2. 5	火	9:00～10:10	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の作成1
13	2. 5	火	10:25～11:35	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の作成2(AL)
14	2. 8	金	9:00～10:10	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の作成3
15	2. 8	金	10:25～11:35	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の作成4(AL)
16	2.13	水	10:25～11:35	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の作成5
17	2.15	金	12:30～13:40	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の発表1
18	2.15	金	13:55～15:05	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の発表2
19	2.15	金	15:15～16:25	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画の発表3
20	2.15	金	16:35～17:45	奥野 順子 _{他*}	学校保健計画のまとめ
	2.20	水	12:30～13:40	日沼 千尋	試験

*奥野 順子、日沼 千尋

〔教育方法論〕

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 日沼 千尋、松永 幸子、
 奥野順子

目的

児童・生徒が主体的な学習を進めていくために、授業内で多様な特徴をもつ児童・生徒との関わりを支援する方法や環境の形成、養護教諭の役割を意識して授業の理論と実践にかかわる基礎的な能力を養う。

到達目標

1. 教育方法の歴史について理解することができる。
2. 教育方法の基本原則を理解することができる。
3. 学力と「学び」の関連性について理解することができる。
4. 保健教育における養護教諭の役割を理解することができる。
5. 授業の設計について学び指導計画案を考えられる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 教育方法の歴史的概観	1. 教育方法の歴史	1) 変貌する「学び」 2) 学習指導要領における「教育方法」の変遷
II. 教育方法の基本原則	1. 教育方法の基本原則	1) 系統学習と問題解決学習 2) 教授・学習の形態と方法
III. 学力と「学び」	1. 学力とは 2. 「学び」の諸相	1) 「学力」とは何か 1) 協同的な学び 2) アクティブ・ラーニング 3) 「学び」を支える教師
IV. 養護教諭が担う「教育」	1. 保健教育における養護教諭の役割	1) 保健教育における教科教育 2) 保健教育における保健指導 3) 保健教育における養護教諭の位置づけ
V. 授業理論と授業の設計	1. 授業理論	1) 教育目標 2) 教育手段 3) 授業の設計と方法 4) 保健教育の授業設計と評価

評価方法

リアクションペーパー50%、作成した授業指導案、教材 50%。

教科書

特に指定しない、必要に応じ資料を配付する。

参考図書

稲垣忠他 著	授業設計マニュアル Ver. 2	北大路書房	2015
佐藤学	教育の方法	左右社	2010
田中耕治他 著	新しい時代の教育方法	有斐閣アルマ	2012
田中智志 ^他 編著	教育方法論	一藝社	2014

その他必要に応じて適宜紹介する。

<講義スケジュール>

1	2018.12.12	水	9:00～10:10	松永 幸子	変貌する「学び」
2	12.12	水	10:25～11:35	松永 幸子	学習指導要領と教材
3	2019. 1.18	金	16:35～17:45	松永 幸子	授業設計と教材の研究
4	1.23	水	15:15～16:25	松永 幸子	学習指導要領における情報教育
5	1.23	水	16:35～17:45	松永 幸子	課題学修(AL)
6	2. 5	火	15:15～16:25	松永 幸子	「学力」とは何か
7	2. 5	火	16:35～17:45	松永 幸子	協同的な学び
8	2. 6	水	12:30～13:40	松永 幸子	アクティブ・ラーニング
9	2. 6	水	13:55～15:05	松永 幸子	「学び」を支える教師
10	2. 8	金	12:30～13:40	松永 幸子	課題学修(AL)
11	2.12	火	15:15～16:25	日沼 千尋	保健教育における養護教諭の役割
12	2.12	火	16:35～17:45	日沼 千尋	行動変容につながる保健教育
13	2.18	月	12:30～13:40	日沼 千尋	授業の設計と方法
14	2.18	月	13:55～15:05	日沼 千尋	評価の基準と方法
15	2.18	月	15:15～16:25	日沼 千尋 奥野順子	保健教育の授業設計と評価1
16	2.25	月	12:30～13:40	日沼 千尋 奥野順子	保健教育の授業設計と評価2(AL)
17	2.25	月	13:55～15:05	日沼 千尋 奥野順子	保健教育の授業設計と評価3(AL)
18	2.28	木	12:30～13:40	日沼 千尋 奥野順子	プレゼンテーション・討議
19	2.28	木	13:55～15:05	日沼 千尋 奥野順子	プレゼンテーション・討議
20	2.28	木	15:15～16:25	日沼 千尋 奥野順子	プレゼンテーション・討議

〔生徒指導論〕

科目責任者 松永 幸子

目的

生徒指導及び進路指導に関する理論、考え方、方法を学ぶ。現代社会に発生する様々な問題を踏まえ、子どもの人格を尊重し、個性の伸張を図りながら、子どもたちが直面する諸課題に対処していく児童、生徒指導・進路指導上の基本的な能力、知識を身につける。

適宜、グループワーク、ディスカッション、DVD 学習等も取り入れる。

到達目標

生徒指導の意義や原理を理解し、教育課程における位置づけを把握する。また、各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の重要性を認識する。インターネットや児童虐待への対応等今日的な生徒指導上の課題について、教諭の果たす役割と校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 生徒指導の意義と目的	1. 学校教育における生徒指導	1) 生徒指導の意義と理念、その機能 2) 生徒指導の現状と課題
II. 生徒指導の法的位置付け	1. 生徒指導と関連法	1) 児童生徒理解の基本 2) 教育基本法、学習指導要領、子どもの権利他
III. 現代の学校教育と生徒指導	1. 学校現場での生徒指導 2. 校則・懲戒・体罰と生徒指導	1) 生徒指導と校則及び体罰 2) 成長を促す指導、問題解決的な指導、集団指導・個別指導
IV. 生徒指導と道徳、他の教科との関連	1. 他の教科と生徒指導	1) 教育課程と生徒指導 2) 「道徳」の時間と生徒指導 3) 「総合的な学習の時間」と生徒指導 4) 特別支援教育と生徒指導
V. 生徒指導の実践	1. 問題行動の理解と指導 2. 個別の問題を抱える児童生徒への指導	1) 問題行動の理解と対応 2) 他の専門職・機関との連携 3) 児童虐待への対応等

評価方法

課題学修（30%）、議論への参加度（20%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

教科書

渡辺雅之 いじめ・レイシズムを乗り越える「道徳」教育 高文研 2014

参考図書

日本生徒指導学会 編 現代生徒指導論 学事出版 2015
 文部科学省 編 生徒指導提要 教育図書 2010
 文部科学省 小・中・高「学習指導要領解説」

＜講義スケジュール＞

1	2019. 1.12	土	9:00～10:10	松永 幸子	生徒指導の意義
2	1.12	土	10:25～11:35	松永 幸子	生徒指導の現状と課題
3	1.24	木	16:35～17:45	松永 幸子	生徒指導と法
4	1.25	金	16:35～17:45	松永 幸子	課題学修(AL)
5	2. 6	水	9:00～10:10	松永 幸子	学校現場での生徒指導
6	2. 6	水	10:25～11:35	松永 幸子	生徒指導と道徳
7	2. 7	木	12:30～13:40	松永 幸子	問題行動の理解と対応
8	2. 7	木	13:55～15:05	松永 幸子	問題行動の理解と指導の進め方
9	2. 9	土	9:00～10:10	松永 幸子	課題学修(AL)
10	2. 9	土	10:25～11:35	松永 幸子	道徳教育と生徒指導
11	2.13	水	12:30～13:40	松永 幸子	中学校での取り組み
12	2.13	水	13:55～15:05	松永 幸子	問題行動への具体的取り組み
13	2.14	木	12:30～13:40	松永 幸子	課題学修(AL)
14	2.14	木	13:55～15:05	松永 幸子	特別活動、総合学習の時間、他の教科と生徒指導
15	2.20	水	13:55～15:05	松永 幸子	課題学修(AL)
16	2.20	水	15:15～16:25	松永 幸子	集団指導と個別指導方法
17	2.21	木	12:30～13:40	松永 幸子	課題学修(AL)
18	2.21	木	13:55～15:05	松永 幸子	道徳教育と人権教育
19	2.27	水	12:30～13:40	松永 幸子	生徒指導の実践(プレゼンテーション) 1
20	2.27	水	13:55～15:05	松永 幸子	生徒指導の実践(プレゼンテーション) 2

〔教育相談〕

科目責任者 新保 幸洋

目的

教育相談の基本的な考え方を理解すると共に、それらと関係の深い問題群（子どもの貧困、不登校、いじめ、発達障害、子どもの虐待、非行など）に関する社会的・経済的・心理的背景や要因についても具体的に学び、多面的・多角的に思考しながら、子ども達への具体的な支援について考えられるようになることを目的とする。

到達目標

1. 学校における教育相談の目的・意義、歴史、課題について理解する。
2. 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、概念を理解する（発達段階、発達課題など）。
3. 児童期、思春期の子どもの不適応や問題行動の意味を理解する。
4. 児童及び生徒の発する様々なシグナルに気づき、それらをいち早く発見・把握する方法を理解する。
5. カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。
6. 学校教育におけるカウンセリング・マインドの必要性を理解する。
7. 不登校、いじめ、虐待、非行、発達障がい、貧困などの問題群を理解する。
8. 不登校、いじめ、虐待、非行、発達障がい、貧困などの問題群と児童・生徒の発達段階、発達課題との関連性を理解し、それらに応じた教育相談を進めてゆくことを理解する。
9. 職種や校務分掌に応じて、児童・生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方、進め方を例示できる
10. 教育相談の計画作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解する。
11. 地域の医療・福祉・心理等の様々な専門機関、専門家達との連携を行う必要性を理解する。
12. 学校危機管理時に学校内外で関係者と連携を行い、養護教諭として果たすべき役割・機能について理解する。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 教育相談の意義、理論、方法	1. 学校における教育相談の意義と理論	1) 学校における教育相談の目的、意義、歴史、課題の理解 2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、概念の理解（発達課題、発達段階など）
	2. 教育相談を進める上で必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む）の理解	1) 児童期、思春期の子どもの不適応や問題行動の意味の理解 2) 児童及び生徒の発するシグナルに気づきそれらを把握する方法の理解 3) カウンセリングの基礎的な姿勢や技法の理解（受容、傾聴、共感的理解、自己一致、無条件の肯定的配慮など） 4) 学校教育におけるカウンセリング・マインドの必要性の理解
II. 教育相談の具体的な展開と課題	1. 教育相談の具体的な進め方とポイント	1) 「不登校」、「いじめ」、「虐待」、「非行」、「発達障がい」などの問題群の理解

大 項 目	中 項 目	小 項 目
Ⅲ. まとめ	2.学校における 教育相談の組織的安取り組みや連携の必要性の理解	2) 上記した問題群と児童・生徒の発達段階や発達課題との関連性の理解とそれらに応じた教育相談の進め方への理解 1) 職種や校務分掌に応じて、児童・生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方、進め方の例示 2) 教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性の理解 3) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関、専門家達との連携やその必要性の理解（病院やクリニック、警察、裁判所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、NPO法人などとの連携） 4) 学校危機管理時の理解と対応（養護教諭としての役割・機能） 定期テスト

評価方法

特別講師による講義後のリアクション・ペーパー（10%）、グループ・ディスカッション時での取り組みや授業中での発言、質問（30%）、授業終了後に行う記述式の試験（60%）の割合で評価し、それぞれの項目の点数を合計し、最終評価を行う。

教科書

特定のものは指定しない。必要となる資料は講師の方で準備して配布する。

参考図書

村瀬嘉代子 ^他 編	青年期の課題と支援	新曜社	2000
村瀬嘉代子 監修	統合的心理臨床への招待	ミネルヴァ書房	2007
藤田和也 編	保健室と養護教諭 その存在と役割	国土社	2008
小泉令三	図説 子どものための適応援助	北大路書房	2006
	生徒指導・教育相談・進路指導の基礎		
仙崎 武、渡辺三枝子、野々村新、菊池武剋	「入門生徒指導・相談」	福村出版	2000
文部科学省	生徒指導提要	教育図書	2010

＜講義スケジュール＞

1	2019. 1. 8	火	9:00～10:10	新保 幸洋	学校における教育相談の目的、意義、歴史、課題の理解
2	1. 8	火	10:25～11:35	新保 幸洋	教育相談に関わる心理学の基礎的な理論、概念の理解
3	1. 9	水	9:00～10:10	新保 幸洋	児童期・思春期の子どもの不適応や問題行動の意味の理解
4	1. 9	水	10:25～11:35	新保 幸洋	児童・生徒の不適応行動等の把握方法の理解、 カウンセリングの基本姿勢、技法の理解、 カウンセリングマインドの必要性の理解
5	1.10	木	9:00～10:10	新保 幸洋	子どもの貧困問題の理解と対応① (相対的貧困状態のシュミレーション、歴史的 背景等の理解)
6	1.10	木	10:25～11:35	新保 幸洋	子どもの貧困問題の理解と対応② (子どもの発達段階・発達課題との関係、将来的 影響)
7	1.11	金	9:00～10:10	新保 幸洋	子どもの貧困問題の理解と対応③ (不登校、いじめ、非行、虐待、発達障がいとの 関連性の理解、ビデオ視聴と討議)
8	1.11	金	10:25～11:35	新保 幸洋	不登校の理解と対応①(定義、歴史、学校復帰率他)
9	1.15	火	9:00～10:10	新保 幸洋	不登校の理解と対応②(発達課題、発達段階との関係)
10	1.15	火	10:25～11:35	新保 幸洋	不登校の理解と対応③(発達障がいとの関係について)
11	1.17	木	12:30～13:40	新保 幸洋	不登校の理解と対応④(不登校の実際：ビデオ視聴と討議)
12	1.17	木	13:55～15:05	新保 幸洋	いじめの理解と対応① (定義、歴史、いじめの解消率、発達段階・発達 課題との関係の理解)
13	1.18	金	9:00～10:10	檜木 啓二	学校内外での連携：心理の専門家であるスクール カウンセラーの仕事を理解し、連携・活用方法を 理解する
14	1.18	金	10:25～11:35	檜木 啓二	発達障がいを有する生徒の理解と効果的な支援
15	1.21	月	9:00～10:10	新保 幸洋	いじめの理解と対応②(いじめの発見を妨げるもの)
16	1.21	月	10:25～11:35	新保 幸洋	いじめの理解と対応③(いじめの態様、虐待・非行との関連他)
17	1.22	火	9:00～10:10	田部井重雄	学校内における教育相談体制の確立(教育相談計 画作成、校内体制の整備、児童・生徒並びに保護 者への進め方の例示)
18	1.22	火	10:25～11:35	田部井重雄	学校における危機管理 ～学校内外の組織・専門家達とどう連携し、養護 教諭としてどう対応するのか～
19	1.23	水	9:00～10:10	新保 幸洋	いじめの理解と対応④(学校としての組織的取り組み)
20	1.23	水	10:25～11:35	新保 幸洋	いじめの理解と対応⑤(いじめへの対応策；ビデオ視聴と討議)
	1.24	木	12:30～13:40	新保 幸洋	試験(授業時間内にレポートを作成し、提出する)

〔日本国憲法〕

科目責任者 東 裕

目的

憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつくられているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保される。これが憲法の構造であり目的である。ただし、憲法は国家という基礎の上に成立すること、そして憲法は国家の独立と平和が確保された状況で正常に機能することを忘れてはならない。この憲法の基本的な考えをまず理解し、その上で、成立当時とは大きく異なる政治・経済・社会・国際関係の中に置かれている日本国憲法の抱える問題点を考える。それがこの講義の目的である。

到達目標

1. 憲法とはどのような法であることを説明できる。
2. 日本国憲法の構造を説明できる。
3. 日本国憲法の成立過程を説明できる。
4. 日本国憲法の基本原理とその相互関係を説明できる。
5. 日本国憲法における権力分立を説明できる。
6. 日本国憲法における人権の分類を説明できる。
7. 日本国憲法の改正手続きを説明できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 憲法総論	1. 憲法の内容・分類・特質 2. 近代立憲主義憲法 3. 現代立憲主義憲法	1) 形式的意味の憲法・実質的意味の憲法 2) 近代立憲主義憲法の成立と特質 3) 現代立憲主義憲法への変容とその特質
II. 日本国憲法の成立と基本原理	1. 日本国憲法の成立 2. 国民主権 3. 平和主義 4. 基本的人権尊重主義	1) 日本国憲法の成立事情 2) 国民主権の意味 3) 日本国憲法の平和主義の特徴 4) 日本国憲法の人権規定
III. 戦争の放棄	1. 日本国憲法の平和主義 2. 戦争放棄の意味 3. 現代国際社会と安全保障	1) 9条解釈の視点 2) 政府解釈・「砂川事件」最高裁判決 3) 冷戦後の国際社会の現実と安全保障のあり方
IV. 国の統治機構	1. 権力分立 2. 議院内閣制 3. 司法権の独立	1) 権力分立の意義と目的 2) 国会と内閣の関係はどうなっているか 3) 司法権の独立とは何か
V. 天皇	1. 天皇の地位 2. 天皇の権能と行為 3. 皇室の経済・財政	1) 国民主権と象徴天皇 2) 国事行為 3) 皇室の費用・財産授受

大 項 目	中 項 目	小 項 目
VI. 国会	1. 国会の地位と権能 2. 国会の構成 3. 国会議員の地位と特権	1) 国権の最高機関・国の唯一の立法機関 2) 二院制 3) 国会議員の地位・国会議員の特権
VII. 内閣	1. 内閣の地位 2. 内閣の組織と権能 3. 内閣総理大臣と国務大臣	1) 行政権の意味 2) 組閣と総辞職 3) 内閣総理大臣および国務大臣の地位と権能
VIII. 裁判所	1. 司法権の独立 2. 裁判所の組織 3. 裁判員制度	1) 司法権の意味 2) 裁判官の身分保障 3) 裁判員制度の現状と問題点
IX. 地方自治	1. 地方自治の本旨 2. 地方公共団体の組織と権限 3. 条例制定権	1) 団体自治と住民自治 2) 普通地方公共団体・特別地方公共団体 3) 条例の意義・条例制定権の限界
X. 人権総論	1. 人権の概念 2. 近代の人権 3. 現代の人権	1) 「人権」とは 2) 人権宣言の歴史 3) 「新しい人権」の登場
XI. 個人の尊重と幸福追求権	1. 「個人の尊重」の原理 2. 幸福追求権 3. 「新しい人権」	1) 「個人主義」、「個人の尊厳」の意味 2) 幸福追求権の意義と範囲 3) 幸福追求権から導き出される人権
XII. 平等原則	1. 平等観念の展開 2. 日本国憲法の平等原則 3. 選挙権の平等	1) 14条1項の解釈 2) 14条1項に違反すると判断された例 3) 選挙権の平等に関する判例の動向
XIII. 精神的自由権（1）	1. 精神的自由権の意義 2. 思想・良心の自由 3. 信教の自由	1) 謝罪広告事件 2) 君が代伴奏拒否事件 3) 津地鎮祭事件など
XIV. 精神的自由権（2）	1. 表現の自由 2. 集会・結社の自由 3. 学問の自由	1) 博多駅テレビフィルム提出命令事件など 2) 東京都公安条例事件など 3) 東大ポポロ事件
XV. 経済的自由権	1. 経済的自由権の意義 2. 居住・移転・職業選択の自由 3. 財産権の保障	1) 小売市場距離制限事件など 2) 森林法共有林事件 3) 財産権の制限と「正当な補償」の意味
XVI. 人身の自由・国務請求権	1. 人身の自由の意義 2. 適正手続きの保障 3. 国務請求権の意義	1) 奴隷的拘束および苦役からの自由 2) 被疑者の権利と被告人の権利 3) 請願権・裁判を受ける権利・国家賠償請求権・刑事補償請求権
XVII. 参政権	1. 参政権の意義 2. 選挙権の法的性質 3. 選挙の基本原則	1) 参政権の性質 2) 権利説・公務説・二元説 3) 普通・平等・秘密・直接・自由

日本国憲法

大 項 目	中 項 目	小 項 目
XⅧ. 社会権	1. 生存権 2. 教育を受ける権利 3. 勤労権と労働基本権	1) 生存権の法的性質 2) 朝日訴訟、堀木訴訟 3) 教育権の所在 4) 労働基本権の制限と主要判例
XⅨ. 憲法保障と憲法の改正	1. 最高法規性 2. 憲法改正手続き 3. 違憲審査制	1) 憲法保障制度とは何か 2) 憲法改正の手続き・改正の限界 3) 違憲審査制の法的性格・違憲審査の対象
XⅩ. 総復習	1. 全講義の要点整理	1) 基本概念の整理 2) 重要条文の確認 3) 論述試験関連事項の整理
試験	1. 到達目標を踏まえた論題 2. 憲法学の基本概念の説明 3. 重要条文の知識	1) 到達目標を踏まえた論述式問題 2) 憲法学の基本概念のいくつかを説明する問題 3) 日本国憲法の重要条文の文言を問う問題

成績評価の方法：

試験の成績（100％）で評価する。

教科書

下條芳明・東 裕編 『新・テキストブック日本国憲法』

嵯峨野書院

2015

参考図書

必要に応じて講義の中で紹介する。

＜講義スケジュール＞

1	2018. 4.23	月	15:15～16:25	東 裕	憲法総論
2	4.23	月	16:35～17:45	東 裕	日本国憲法の成立と基本原理
3	5. 7	月	15:15～16:25	東 裕	戦争の放棄
4	5. 7	月	16:35～17:45	東 裕	国の統治機構
5	5.14	月	15:15～16:25	東 裕	天皇
6	5.14	月	16:35～17:45	東 裕	国会
7	5.21	月	13:55～15:05	東 裕	内閣
8	5.21	月	15:15～16:25	東 裕	裁判所
9	5.28	月	15:15～16:25	東 裕	地方自治
10	5.28	月	16:35～17:45	東 裕	人権総論
11	6. 4	月	15:15～16:25	東 裕	個人の尊重と幸福追求権
12	6. 4	月	16:35～17:45	東 裕	平等原則
13	6.11	月	15:15～16:25	東 裕	精神的自由権（１）
14	6.11	月	16:35～17:45	東 裕	精神的自由権（２）
15	6.18	月	15:15～16:25	東 裕	経済的自由権
16	6.18	月	16:35～17:45	東 裕	人身の自由・国務請求権
17	6.25	月	15:15～16:25	東 裕	参政権
18	6.25	月	16:35～17:45	東 裕	社会権
19	7. 2	月	15:15～16:25	東 裕	憲法保障と憲法の改正
20	7. 2	月	16:35～17:45	東 裕	総復習
	7. 9	月	15:15～16:25	東 裕	試験

授業担当教員一覧

看護学部第3学年授業担当教員

[専任教員]

人文社会科学系

教 育 学	教 授	松永 幸子
社 会 学	准教授	諏訪 茂樹
英 語	講 師	設楽 靖子

基礎科学系

生 理 学	准教授	神山 暢夫
生 化 学	准教授	榊 建二郎

臨床医学系

外 科 学	教 授	尾崎 恭子
内 科 学	准教授	南家 由紀

看護学系

基礎看護学	教 授	守屋 治代	
	准教授	菊池 昭江	
	准教授	見城 道子	
	講 師	加藤 京里	
	助 教	小宮山陽子	
	助 教	徳田 由希	
	成人看護学	教 授	笹原 朋代
		准教授	小泉 雅子
		准教授	三條真紀子
		講 師	原 美鈴
		講 師	三浦美奈子
		助 教	小林 礼実
		助 教	鈴木香緒理
		助 教	峯川美弥子
		助 教	那須実千代
助 教		河合 育世	
看護職生涯発達学	教 授	吉武久美子	
	講 師	草柳かほる	
	助 教	多久和善子	
	助 教	山口 紀子	
	助 教	池田 真理	
看護管理学	教 授	長江 弘子	
老年看護学	准教授	坂井 志麻	
	講 師	原沢のぞみ	
	助 教	岩崎 孝子	
	助 教	川原 美紀	
小児看護学	教 授	日沼 千尋	
	准教授	青木 雅子	
	講 師	奥野 順子	
	助 教	櫻田 章子	
	助 教	村田知佐恵	
母性看護学	教 授	小川久貴子	
	准教授	土江田奈留美	
	講 師	竹内 道子	
	講 師	抜田 博子	
	講 師	飯塚 幸恵	
	助 教	田幡 純子	
	助 教	藤方小弥香	

地域看護学

教 授	清水 洋子
准教授	中田 晴美
講 師	犬飼かおり
助 教	高 紋子
助 教	吉澤 裕世
助 教	本田 順子
教 授	田中美恵子
講 師	小山 達也
講 師	嵐 弘美
助 教	異儀田はづき
助 教	飯塚あつ子

精神看護学

[兼任教員]

健康科学論

教 授	松岡 雅人
講 師	蔣池 勇太
助 教	藤木 恒太
助 教	奥津 康祐
臨床講師	三村 千弦
臨床講師	山田咲樹子
臨床講師	高木 志帆
講 師	大原 明子
司 書	五十嵐菊美
講 師	白石 和子
講 師	金子恵美子

老年看護学・各論

小児看護学・各論

母性看護学・各論

研究方法論

キャリア発達論Ⅲ

[兼任教員]

公衆衛生学

健康科学論

地域看護学・各論

精神看護学・各論

在宅看護論

英 語 Ⅱ

中 国 語

学校保健

教育相談

日本国憲法

講 師	北島 勉
講 師	宮山 貴光
講 師	池戸 啓子
講 師	濱田 由紀
講 師	橋本ナターシャ
講 師	宮原 葉
講 師	劉 秋佳
講 師	黒田 薫
講 師	新保 幸洋
講 師	東 裕

看護学部第3学年授業担当教員

[医学部看護学部協働教育 担当教員]

八千代医療センター産婦人科	教授	正岡	直樹
母子総合医療センター	教授	小川	正樹
神経内科学	准教授	清水	優子
心臓血管外科学	准教授	齋藤	聡
東医療センター産婦人科	准教授	村岡	光恵
精神医学	講師	稻田	健
内科学（第一）	准講師	八木	理充
外科学（第二）	准講師	尾身	葉子
循環器内科学	助教	芹澤	直紀
消化器外科学	助教	谷口	清章
小児科学	助教	伊藤	進

